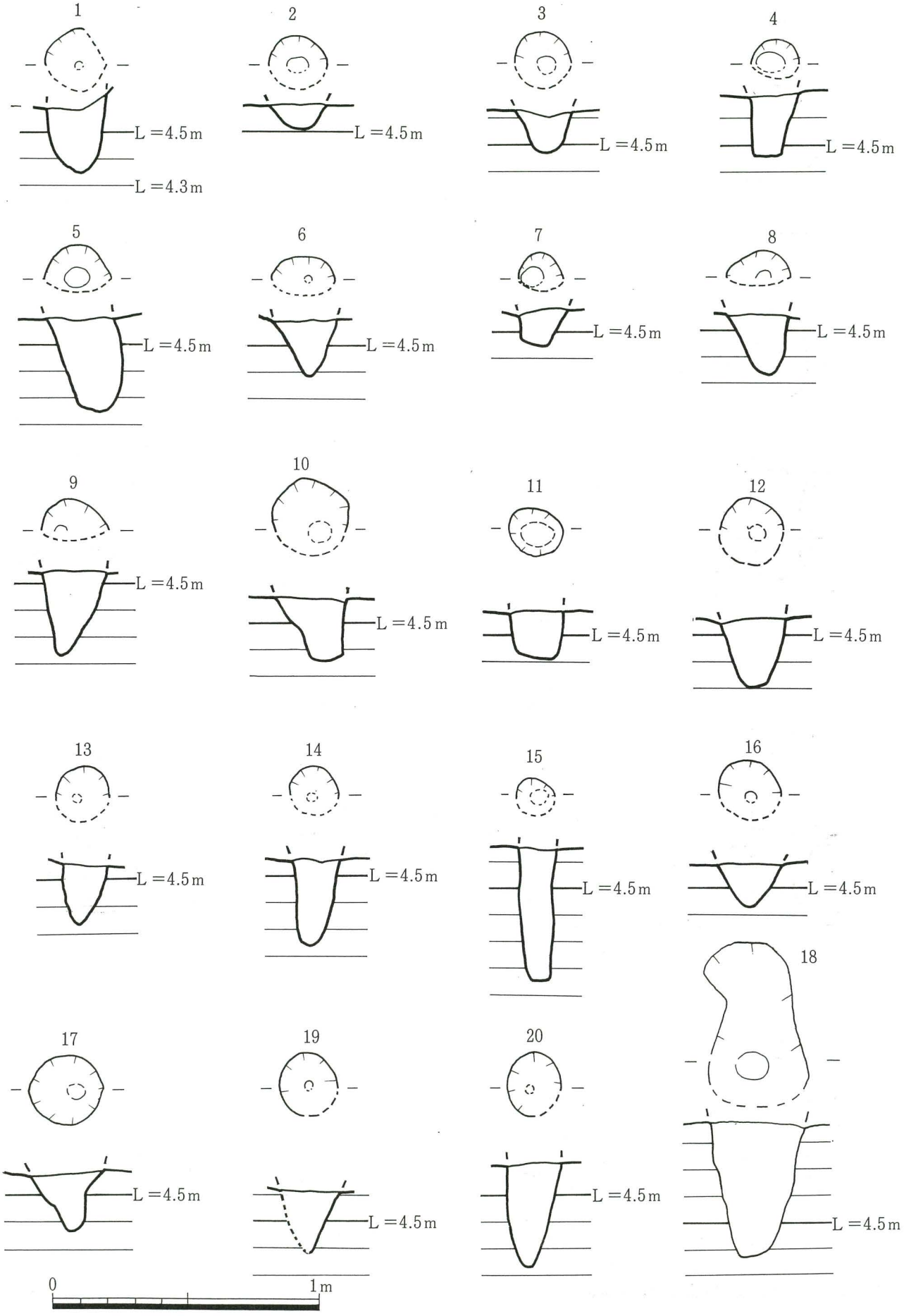
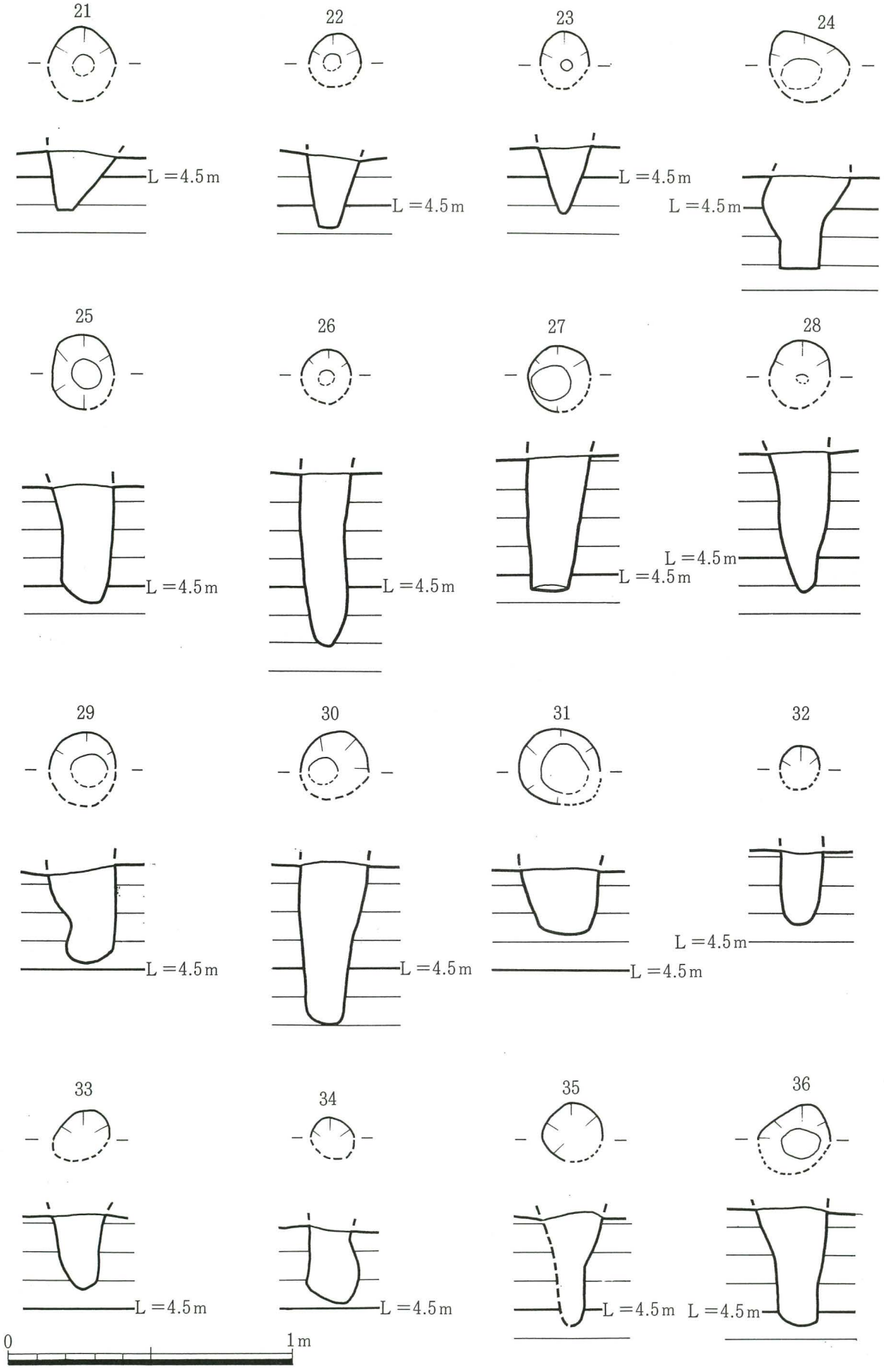
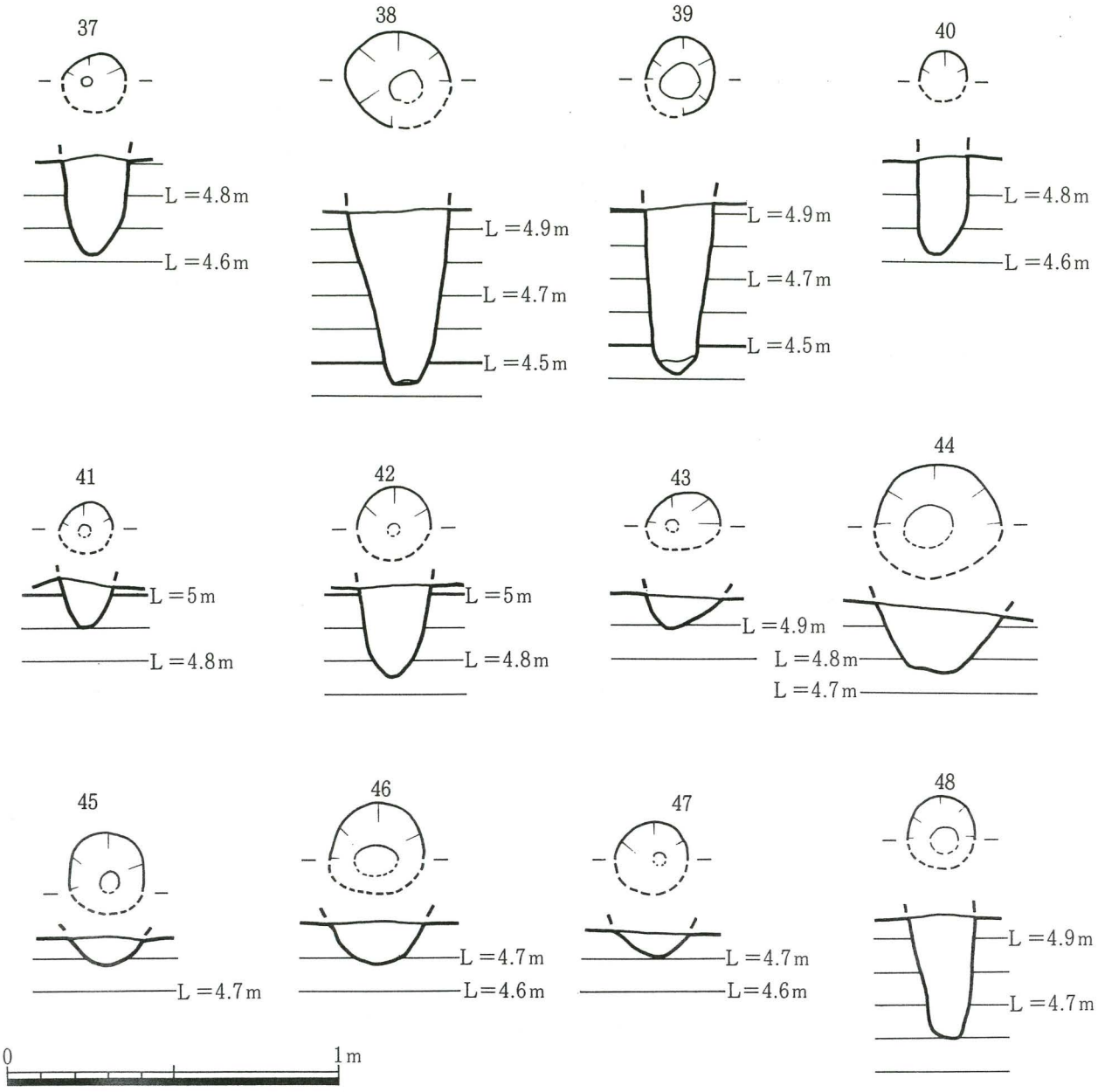


第39図　古墳時代柱穴平・断面図①(S＝1／20)



第40図　古墳時代柱穴平・断面図②(S＝1／20)



第41図　古墳時代柱穴平・断面図③(S＝1／20)

このことから，古墳時代の竪穴式住居には，複数の種類の樹木が建築材として用いられていたことが看取され、，住居の構造や工法に応じてその部分に適した種類の樹木を使っていた可能性がでてきた。しかし，現段階においては具体的に樹種と材の対応を指摘しうる情報を読み取ることができないため，あくまでも可能性の範疇としてとらえ，今後の住居の発掘調査における注意すべき視点の一つとして認識したい。

さて，敷領遺跡，橋牟礼川遺跡ともに奈良～平安時代の竪穴式住居が検出されているが，その建築技術が古墳時代より伝統的に継承されているとの見解がある（中摩1996)。中摩氏は，橋牟礼川遺跡で検出された奈良～平安時代の竪穴式住居について，住居内部の壁際にもうけられた壁帯ピットから，壁立住居の可能性を指摘している。そして，同様に壁帯ピットをもつ古墳時代の竪穴式住居が存在することから，同時期より壁立住居が建築されていた可能性を示し，その点から技術基盤の継承を示唆している。

また，一方，壁立住居の存在は，壁帯ピットの評価によるものであり，十分に垂木，あるいは伏せ屋根を支える強度があったかどうかといった点も含め慎重な検討が必要との指摘もある。

今回検出されたＳＡ－１は主柱穴が１つの住居である。橋牟礼川遺跡から円形プランではあるが，主柱穴が１つの奈良～平安時代の住居が検出されている。また，ＳＡ－２についても，仮に主柱穴が３基であった場合，同様の奈良～平安時代の住居が橋牟礼川遺跡から検出されている。主柱穴の数のみをもって直ちにそれが建築技術の継承の傍証とは言えないとも考えるが，これまでにも指摘されている甕形土器の脚台や突帯の継承，貝塚の継続性など他の文化項目において古墳時代から続く伝統性を考慮すると技術基盤が継承されれいる可能性は十分に考えられる。

ところで，南部九州の古墳時代の住居には，ＳＡ－１のように住居の壁際に土壙を伴うものが多く見られるが，これまで検出された奈良～平安時代の住居には見られない。また，壁帯ピットを伴う住居とそれをもたない住居とがあり，橋牟礼川遺跡の出土例では，検出した住居の数に限って言えば，壁帯ピットをもたない住居の方が多い。壁帯ピットを伴う住居の出現も問題と両時期の住居構造の細部にわたってそれぞれ詳細に検討し，比較していくことでより明確な解答に迫れるものと思われる。（文責　渡部）

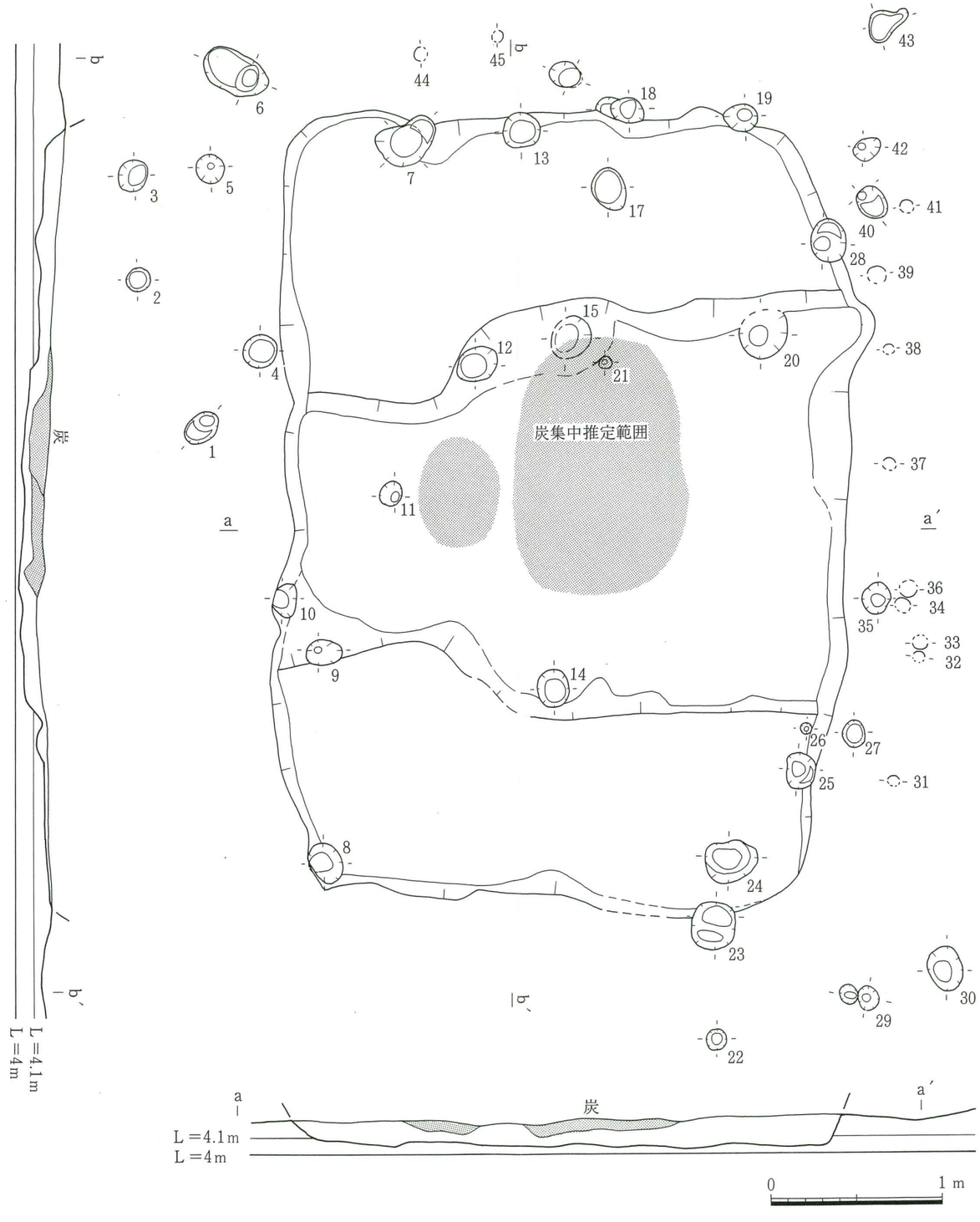
４．弥生時代の遺構

(1)　竪穴式住居ＳＡ－３

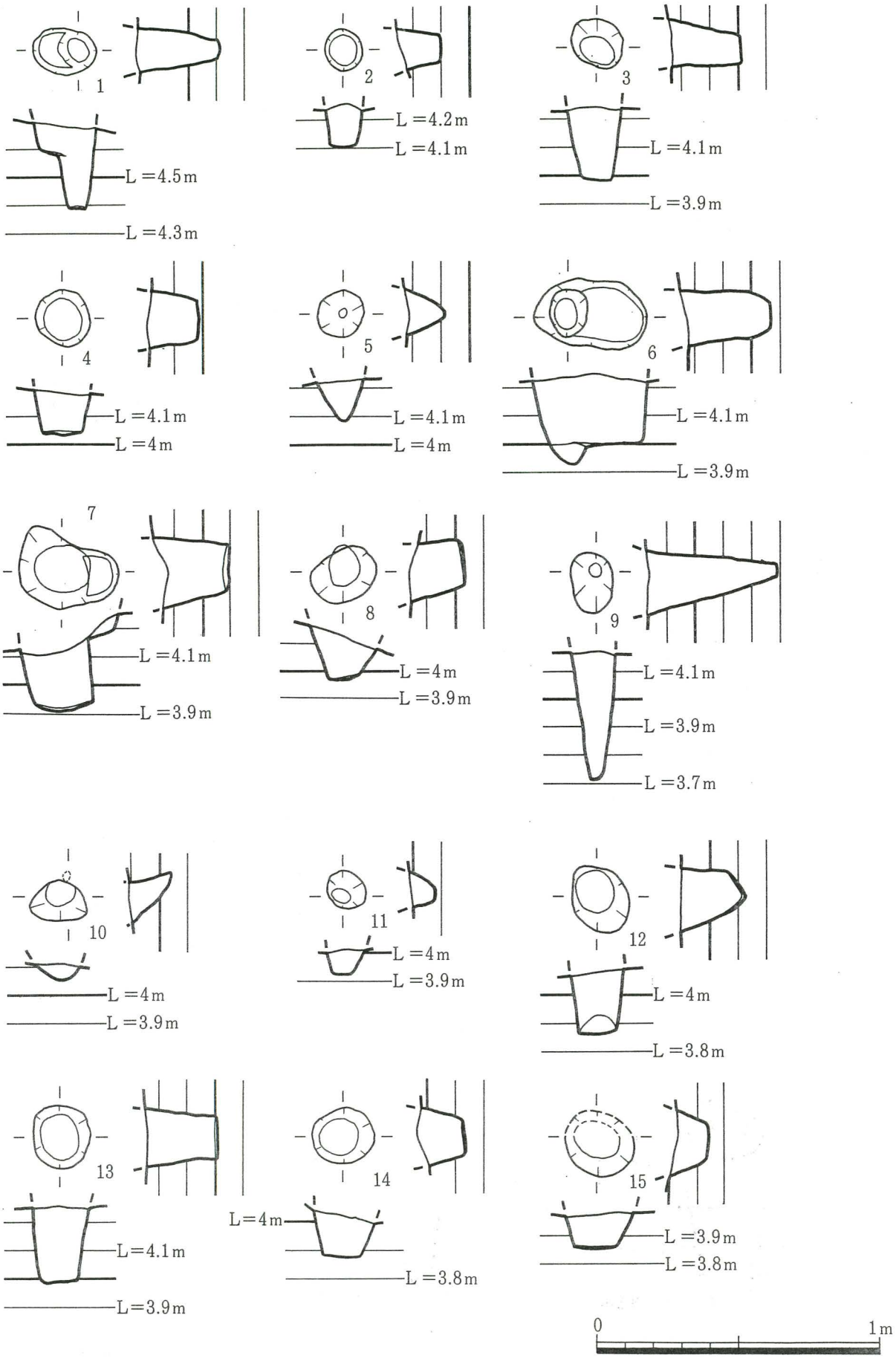
敷領遺跡において弥生時代に帰属する竪穴住居が１基検出された。検出位置は，調査区東南隅付近，層位は12層中である。住居は主軸を略東西に取る。平面形は隅丸長方形であり，北面の長辺に若干の張り出しを持つため，北西角は角度が緩くなる。竪穴掘り方法量は，長辺4.56ｍ，短辺3.26ｍである。上面の削平のため，竪穴は床面より若干上がった部分からしか検出されておらず，残存する掘り方深さは最大で20㎝である。竪穴内部の両短辺にはベッド状遺構が見られる。ベッド状遺構の法量（幅）は，西面で最大1.4ｍ，最少0.87ｍ。東面で最大1.62ｍ，最少１ｍである。ベッド状遺構はいずれも南面で幅が広がっており，結果的にＬ字状と逆Ｌ字状を呈している。床面との高低差は，西面で11㎝，東面で７㎝である。

埋土中に，炭化物集中箇所が２ヶ所見られる。床面中央やや西寄りに見られるものと，その南に隣接するものである。いずれも，床面に接してはいないため，炉との関連は薄いと考えられる。床面，ベッド状遺構面，掘り方上場付近及び掘り方外にピットが43基検出されている。そのうち，他の弥生住居の例から見て，主柱穴の可能性が高いと考えられるのは，Ｐ14とＰ15である。これらは長軸線に沿って配され，両短辺からそれぞれ1.2ｍと1.3ｍを計る位置にある。これは，ほぼ長軸の４分の１の長さに当たり，意識的に左右対称に配置したことが伺えるためである。しかしながらピットの深さは12㎝と15㎝と浅く，主柱を十分に支持できたか疑問が残る。また，最大径は23㎝，24㎝と他のピット並みのサイズである。

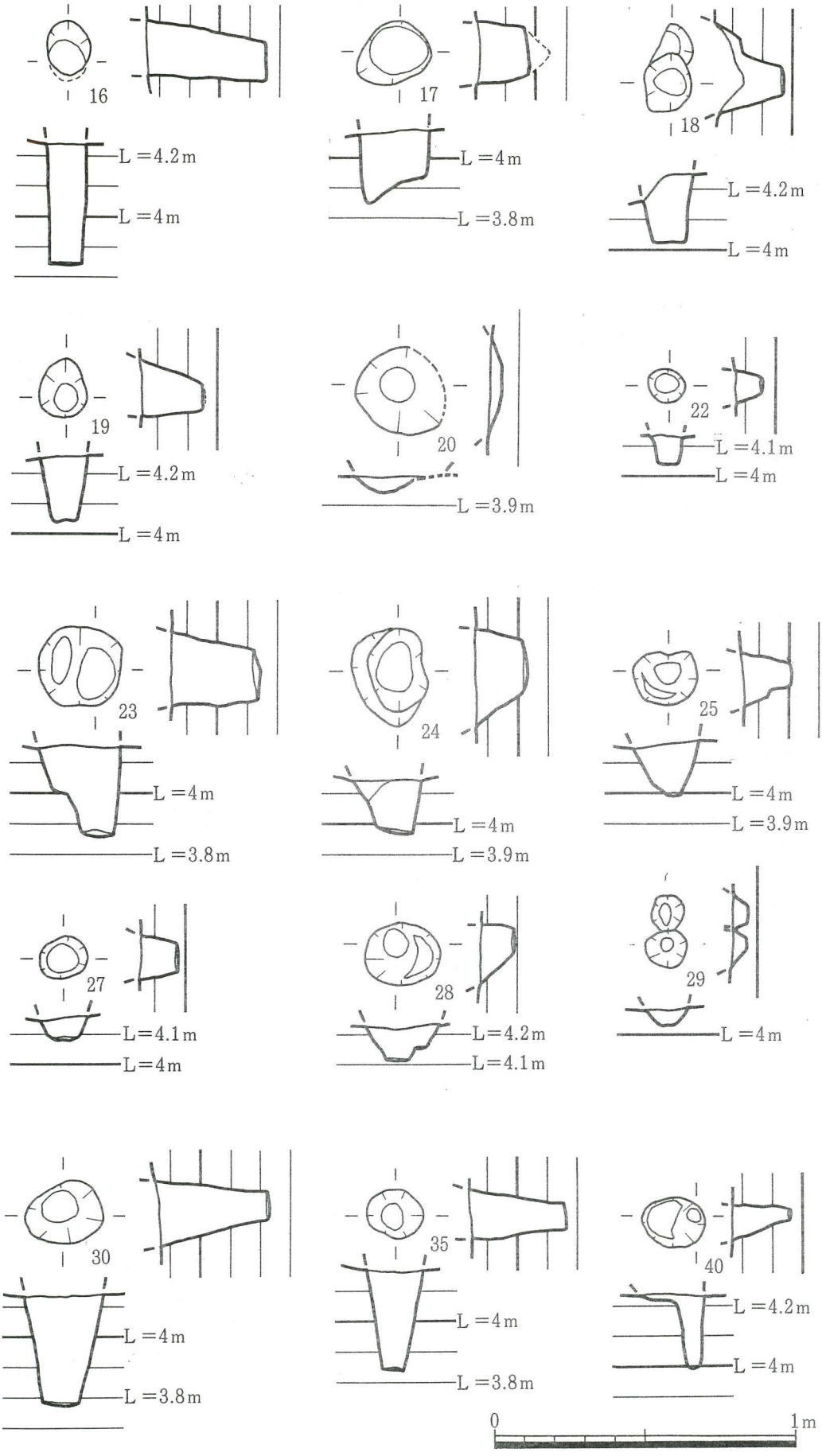
さて，住居内外で検出された大小のピットに関して述べる。住居床面には，Ｐ14・15以外に，Ｐ11・12・20・21がある。Ｐ11は床面の幅が狭まった部分の中央付近に位置する。最大径14㎝，深さ10㎝である。Ｐ12はＰ15に隣接し最大径27㎝　，深さ23㎝を計る。Ｐ20は，すり鉢状の浅い土壙である。上面がやや削平されている。ベッド状遺構面にはＰ17・24がある。Ｐ17は竪穴の長軸に寄った位置にあり，Ｐ24は竪穴南西隅付近にある。それぞれ，最大径25㎝・34㎝，深さ18㎝・20㎝を計る。Ｐ14，Ｐ15を繋いだ延長上にＰ16がある。これは，最大径18㎝，深さ40㎝を計る。（文責　中摩）



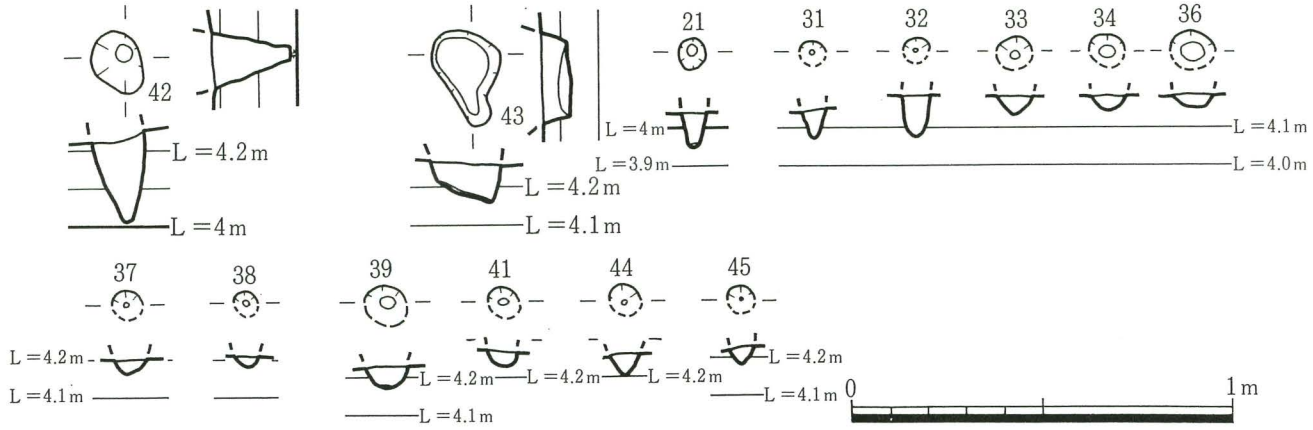
第42図　弥生時代竪穴式住居（ＳＡ－３）平・断面図(S=1／30)



第43図　ＳＡ－３柱穴平・断面図①(S＝1／20)



第44図　ＳＡ－３柱穴平・断面図②(S＝1／20)



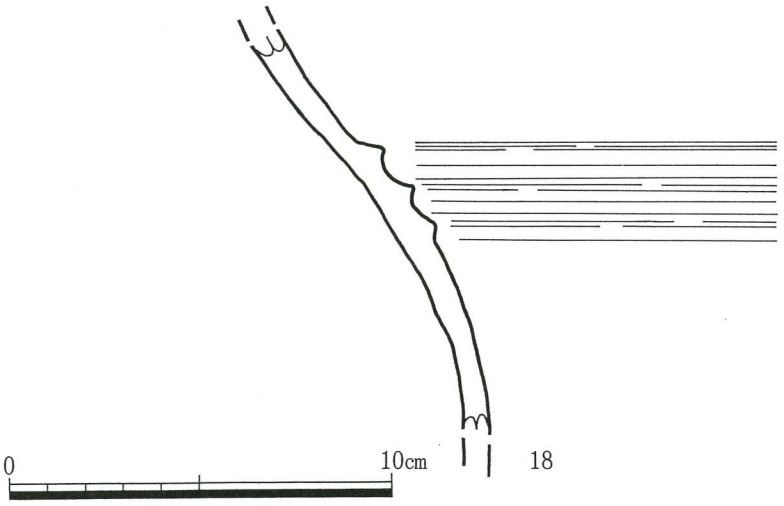
第45図　ＳＡ－３柱穴平・断面図③(S＝1／20)

(2)　ＳＡ－３出土遺物

ＳＡ－３の埋土からは，第46図18が出土している。

18は，壷形土器胴部突帯部で，３条の刻みを施さない突帯が貼付されている。弥生時代中期に該当する遺物であると考えられる。

ＳＡ－３については，住居形態や18の遺物などから，弥生時代中期頃の住居であると考えられる。



第46図　ＳＡ－３出土遺物実測図(S＝1／2)

(3)　考察４－弥生時代竪穴式住居－

・年代観について

敷領遺跡ＳＡ－３号住居（以下「ＳＡ－３」と表記）は，弥生時代包含層内の検出であり，弥生時代に帰属するものとみてよい。

ＳＡ－３号は形態的特徴から，鹿屋市王子遺跡におけるＡタイプ（平面略方形の２穴竪穴住居）（立神；1985）の範疇に近い。例えば王子３号住居は，方形２穴主柱であり，ベッド状遺構２基を持つもので，ＳＡ－３と類似している。

一方，北部九州において方形２穴住居は，弥生時代中期後半には普及しており（宮本 1996），弥生中期前半の事例もある。王子遺跡の事例も，弥生中期後半のものが大半であることから，この時期この種の住居が，南部九州に伝播した可能性が考えられる。

このように考えると，ＳＡ－３は，ベッド上遺構が「Ｌ」字形を呈しており，福岡県春日市赤井手遺跡事例に酷似していることもうなづける。

このような点から，敷領遺跡ＳＡ－３住居は，弥生時代中期後半以降の時期に収まると考えてよいと思う。

・構造に関して－竪穴外のピットの性格－

ＳＡ－３の竪穴の内外にはピット状遺構が多数見られる。この内，Ｐ14・15は主柱穴である。注目したいのは，上記２穴の延長線上に見られるＰ16である。深さは37㎝を計り，柱穴として十分機能するものと考えられる。ピットの下端レベルは，標高3.85㎝であり。Ｐ14の標高3.88ｍ，Ｐ15の標高3.87ｍとほぼ一致している。このことは，Ｐ16は主柱２本と同様の機能をもって設置された柱である可能性を示すのではないか。

弥生時代中期後半の大隅半島では，王子遺跡例のように棟持柱付掘立柱建物が見られる。同時に，鹿屋市前畑遺跡３号住居（新東；1990）などでは，この技術を竪穴住居に応用した可能性を示す事例がある。指宿市橋牟礼川遺跡ほかでは山之口式土器が一般的に出土しており，大隅半島と情報を共有することが想定されている。

こうした状況下で，棟持柱付掘立柱建物や棟持柱付竪穴住居の技術情報もまた伝播したのかもしれない。

ところで，Ｐ16を棟持柱とすると，同様の柱がＰ14側にも見られるはずであるが，これはない。何故片方のみにこれを設けたのだろうか。

Ｐ16側の掘り方端部には，Ｐ７・13・18・19があり，いずれも深さ20㎝を越える。これらは，位置的には後世の遺構の切り合いとは考えられず，梁間の垂支柱の可能性が考えられるだろう。支柱はＰ16側にのみ設けられ，何らかの理由で上屋構造を補強する必要性があったのかもしれない。棟持柱がＰ16側のみにあることも同じ理由によるかもしれない。

ところで，Ｐ14・15は深さが20㎝弱と，柱支持力は十分だったのだろうか。これを解消する目的でＰ16を設けた可能性も考慮する必要があると考える。　　（文責　中摩）

（文献）

立神次郎，（1985）.『王子遺跡』，鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書，34. 鹿児島：鹿児島県教育委員会

宮本長二郎，（1996）.『日本原始古代の住居建築』.東京：中央公論美術出版.

新東晃一・雨宮瑞生・梅北浩一・小片丘彦・峰　和治・桜木晋一，（1990）.『前畑遺跡』，鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書，52. 鹿児島：鹿児島県教育委員会

※図中No.は取り上げNo.

第47図　第６層遺物出土状況図(S＝1／100)

第２節　遺物について

１．第６層出土遺物

敷領遺跡における包含層出土遺物は，第６層（７世紀後半～西暦874年に生成した土層）中から出土したもの，第９層，第10層，第12層などから出土したものなどがある。

第６層は，７世紀後半に比定される開聞岳を給源とする火山噴出物「青コラ」上位に生成されたもので，貞観16年３月４日（西暦874年３月15日）に比定される同じく開聞岳の噴出物「紫コラ」に被覆され，土壌の生成が中断されている。

従って，第６層に包含される遺物については，「紫コラ」の撹乱が行なわれていない限り，貞観16年という下限年代が与えられる。

しかし，第６層には，その層の生成された期間に行なわれた，人為的ないしは自然的な撹乱によって第６層が生成された年代よりも以前に帰属する遺物も同時に含まれる。

従って，ここでは，第６層から出土したものの第６層以前の遺物と考えられるものについても触れる。

第６層から出土した遺物には，以下のものがある。

(1)　**須恵器**

①　**須恵器蓋**

須恵器蓋（つまみあり）　　第48図19～24，第56図86

須恵器蓋のうち，つまみを有するものには，例えば，19のように，「宝珠形」を呈するもの（宝珠つまみ），22のようにボタン状のつまみ（擬宝珠つまみ）を有するもの，そして，23のように「輪」形を呈するものなどがある。

これらの蓋のうち，22については，蓋の天井部内面に円滑面が形成され，調整痕跡が消失し，かつ，カーボンが付着していることから，転用硯と考えられる。

また，86については，同様に転用硯と考えられるが，「智」字の行書体と考えられる墨書が確認される（永山修一氏教示）。

②　**須恵器蓋**（つまみ有無不明）　　第48図25～30，第49図31～40，第56図88

須恵器蓋の中で，つまみの有無が不明なもののうち，25～30，32，88については，口縁部外面がやや湾曲している。また，31，40のように口縁端部が直立するものがある。さらに，33～38のように，若干，口縁端部を折り返し，直立しているものがある。

39は，口縁端部が直立しないものがある。

これらのうち，特に40については，天井部内面に，繊維質が樹脂状の付着物とともに付着している。

88には墨書とも思われるものが認められるが判読できない。

③　**須恵器坏**（高台あり）　　第50図40～50，第52図59～63，第56図87

須恵器坏には，高台のあるものとないものがある。

高台の形態では，第50図41～50，第52図61のように低い高台を有するものと，第52図59，60，62，63のようにやや高い高台を有するものがある。

87はやや高い高台を有するもので，墨書が認められる。２字が書かれていたものと考えられるが，１字のみの判読が可能である。墨書には「糀」の異体字とも考えられる（永山修一氏教示）。

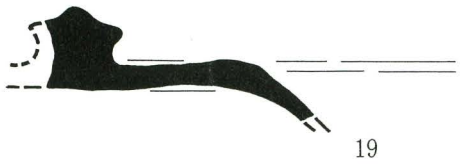
④　**須恵器坏**（高台なし）　　第53図64～75

高台を有さない須恵器坏には64～75がある。いずれも底部外面についてはヘラケズリの後にナデ調整を施す。

⑤　**須恵器坏（口縁部）**　　第51図51～58

須恵器坏口縁部である。高台の有無については不明である。58については，坏または皿の可能性がある。

⑥　**須恵器甕**　　第54図76，77，第55図79，80

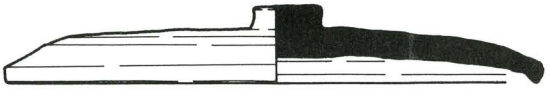

19

25

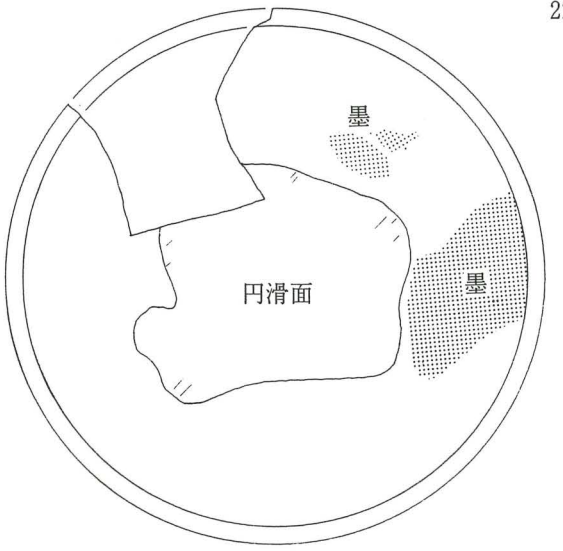
20

26

21


22

27

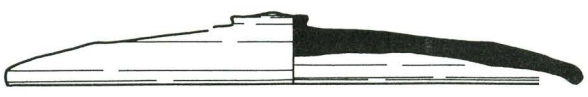


28

29

23

30


24

第48図　第 6 層出土遺物実測図①(S＝1／2)

31

36

32

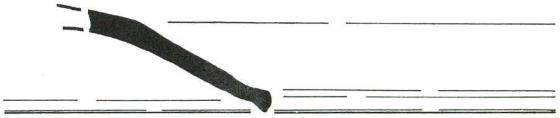
37

33

38

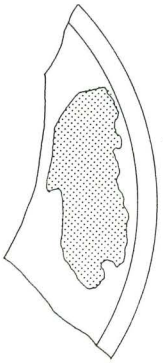
34

39



35

40



付着物有

第49図　第６層出土遺物実測図②(S＝1／2)

76は須恵器甕口縁部である。口縁部の立ち上がりはほとんどなく，口縁部外面は，回転横ナデにより凹線状となっている。体部内面は同心円タタキが施され，体部外面は格子目タタキが施される。極めて似ている類例としては，熊本県荒尾市の野中窯跡などがある（松本・勢田　1980）。

77は口縁部を直立させ，いわゆる「二重口縁」と呼称する形態に近いものである。類例は鹿児島県金峰町山野原遺跡（金峰町教育委員会・宮下　1995）などにある。

79縁端部の直立がほとんど認められない。80部から口頸基部である。

⑦　**須恵器壷**　　第54図78，第55図81～83

78は，肥後から薩摩・大隅にかけて散見される地域性を反映した壷形土器である。口縁部に立ち上がり部分を形成し，また，肩部の外面を回転ケズリを施し，稜をもって形成するものの体部である。類例では，熊本県荒尾市の北山浦Ａ窯跡（松本・勢田　1980）などにその類例を求められる。

81は底部である。高台内面見込部には「レ」字に似たヘラ書きが認められる。

82は壷口縁部であるが，口縁端部に「受け」部が形成されるような形態を呈する。本来蓋を伴う壷の可能性がある。83は壷口縁部である。

⑧　**須恵器鉢**　　第54図84，85

84は体部から口縁部へ直線的に至る鉢の口縁部である。85は体部がゆるやかに湾曲し，口縁端部に至る鉢である。

(2)　Ak（「青コラ」：７世紀後半の開聞岳噴出物）堆積以降の土師器と考えられる遺物

①　**土師器蓋**　　**第57図89～91**

土師器蓋は，いずれもつまみを有するもので，特に，90は「宝珠」形を呈する。一方89，91はボタン状のつまみを有する。

89～91の土師器蓋は，ロクロの使用による回転ヘラケズリなどの痕跡が見え，須恵器の成形技法や調整技法を踏襲している。特に90については，成形技法及び形態的観察ではむしろ須恵器蓋の製作技術が見られ，むしろ，土師質の須恵器と呼んでよいかもしれない。

一方，89の場合は，形態上も口縁端部は須恵器蓋とは異なり，直立部分などが形成されない。従って，89については，土師器の範疇と考えられる。

②　**土師器坏（高台あり）**　　第58図92～95

土師器坏のうち，高台を有するものに92～95がある。92については，高台内面見込部に「×」形のヘラ書き記号が認められる。

③　**土師器坏（高台なし）**　　第59図96～101

土師器坏で高台を有さないものに96～101がある。特に96，97について口径・器高ともに高台を有する土師器に比べやや小ぶりである。

97については，体部内面にカーボンが付着しており，また，繊維組織が一部観察された（fig49のａ参照）。97に付着していた繊維は，縦横糸の対応は困難であったが，密の方向で７本／5mm，疎の方向で５本／5mmを測り，かなり密度の濃い組織である。

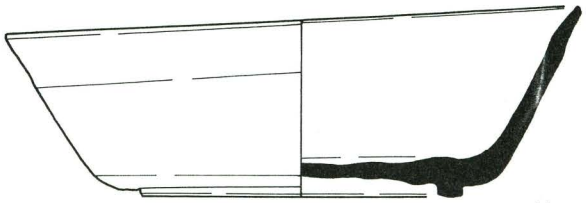
④　**土師器甕**　　第60図102～111，第61図112～121，第62図122～126

土師器甕については，102～111などがある。そのほとんどは，口縁部が外反し，胴部内面ではヘラケズリを行うものである。特に口縁部資料の中では，口縁部内面の屈曲部分に明瞭に稜線が形成されるもの（116～118，120，122）がある。また，116～121は口唇部をヨコナデし，平坦に作り出すものである。

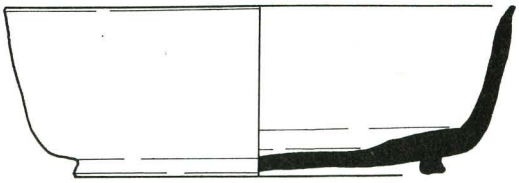
これら土師器甕については，橋牟礼川遺跡も若干の出土があると同時に，古墳時代の「成川式土器」の製作伝統を踏襲する脚台つきの甕形土器との第６層中における共伴事例が知られる（下山　1993）。

(3)　古墳時代の土師器と考えられる遺物

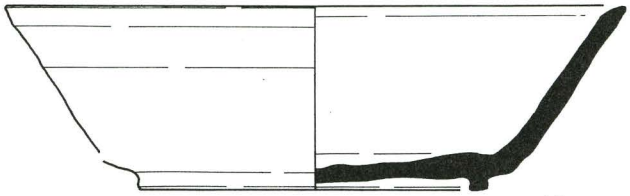
⑤　**壷形土器**（「成川式土器」）　　第70図171，172，175，176



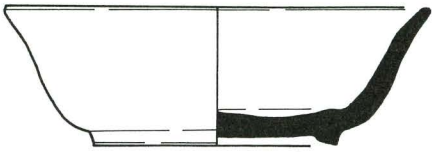
41



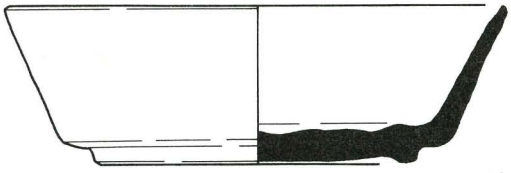
46



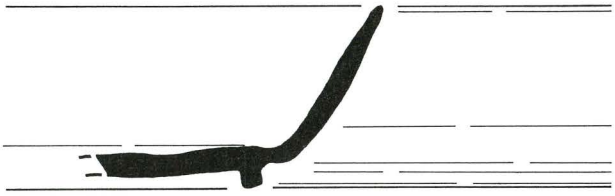
42



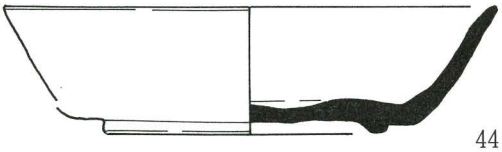
47



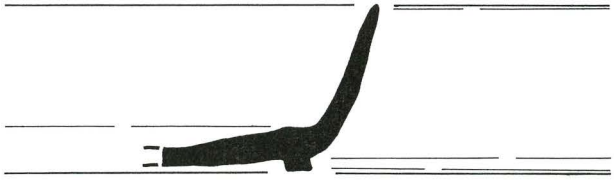
43



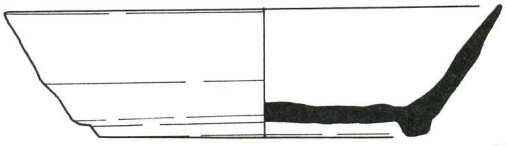
48



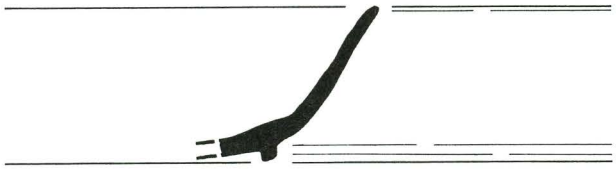
44



49



45



50

第50図　第 6 層出土遺物実測図③(S＝1／2)

171は，「成川式土器」のうち「笹貫式土器」（中村　1987による）と呼ばれる様式の範疇に含まれる壷形土器の口縁部である。172，175も壷形土器の口縁部である。176は壷形土器の肩部である。

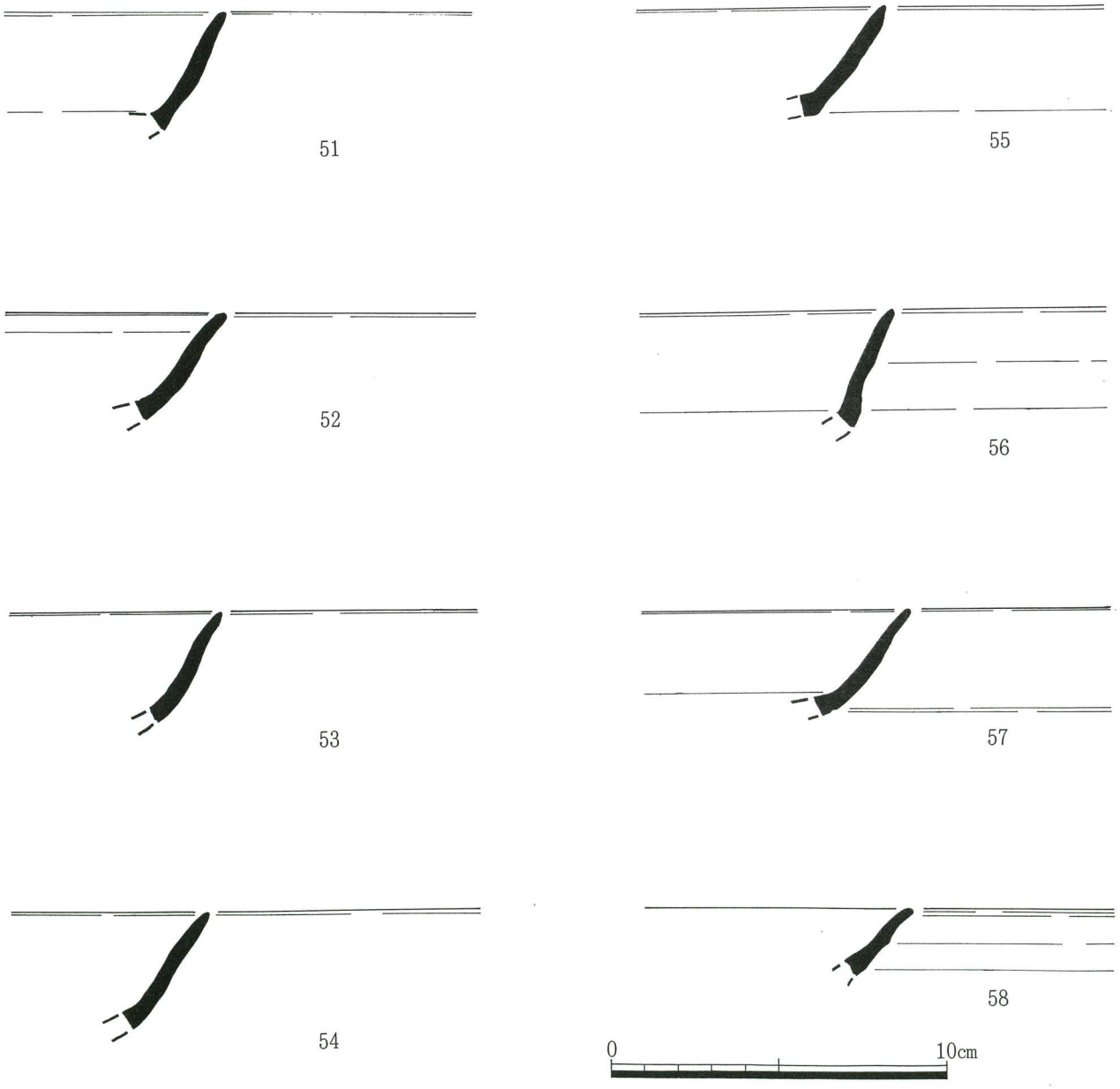
特に，「笹貫式土器」は，「青コラ（Ak)」と呼ばれる開聞岳を給源とする火山噴出物で被覆されていることで知られる様式であるが（下山　1992)，この様式は，橋牟礼川遺跡などの発掘調査成果から，第６層中でその様式が崩壊した可能性が指摘される。従って，これらの遺物が，本来，第６層（７世紀後半～西暦874年）に帰属したものかどうか判然としないものの，その可能性も棄却できない。

⑥　**高坏形土器**（「成川式土器」）　　第72図186，187

第６層の高坏形土器では，186，187がある。両者ともに脚部である。高坏形土器は，「成川式土器」様式の中では，様式を構成する一器種であるが，第６層中ではその出土量は経験的に少なくなる傾向がある。これは，「成川式土器」様式の崩壊に起因するとも考えられるが，これらの資料の帰属時期を含めてここで詳らかにはできない。

⑦　**鉢形土器**（「成川式土器」）　　第73図191

191は鉢形土器の底部から口縁部までの資料である。底部は脚台を有する。



第51図　第６層出土遺物実測図④(S＝1／2)

⑧　ミニチュア土器　　第73図192，193

192，193はミニチュア土器の底部である。いずれも甕形土器のミニチュア土器である。これら資料は古墳時代の「成川式土器」と考えられるが，第６層中では，脚台を有する甕形土器が存続することが，平成４年度の国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の発掘調査で出土しているため，一概に古墳時代に帰属する遺物とも決められない（下山　1995）。

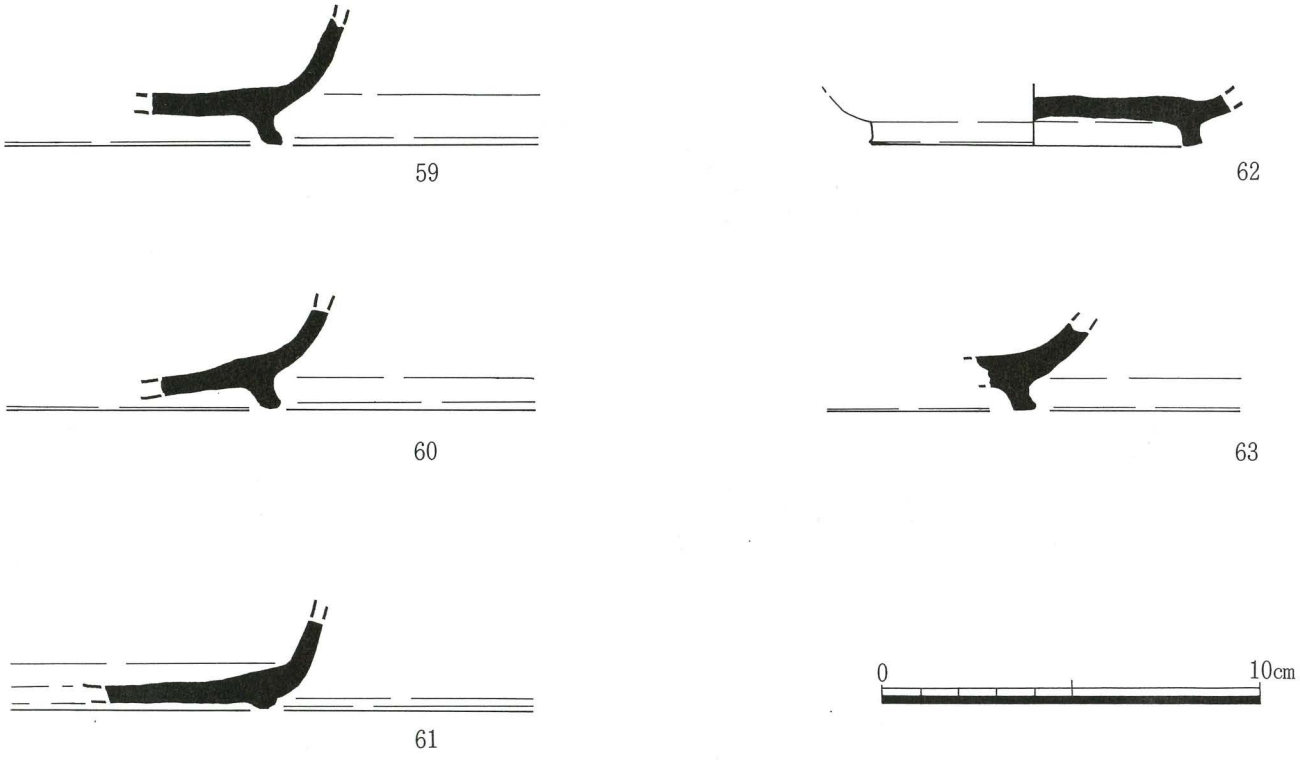
(4)　弥生土器

①　甕形土器　　第65図135，136

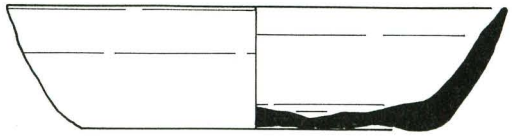
第６層中の弥生土器については，層位学的年代観から，明らかに混入と考えられるものである。135，136ともに，口縁部が断面「三角形」を呈するもので，口唇部には工具による刻みが施される。工具については，棒状具かヘラ状工具か判然としない。

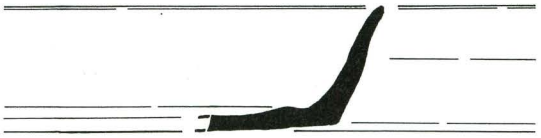
②　壷形土器　　第69図165

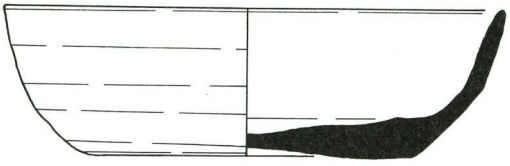
165は壷形土器の底部と考えられる。

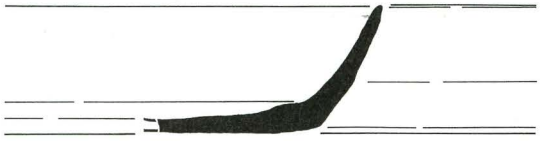


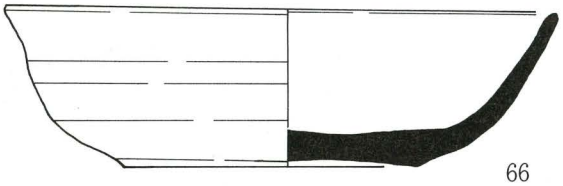
第52図　第６層出土遺物実測図⑤(S＝1／2)

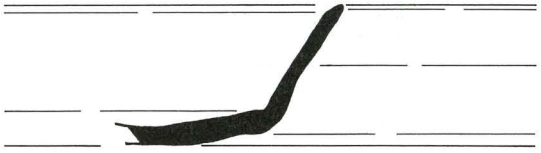

64

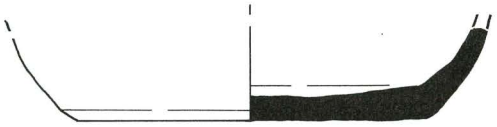

70

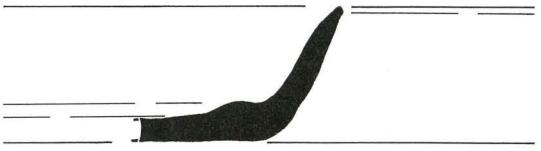

65

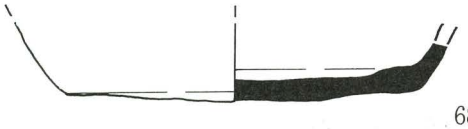

71

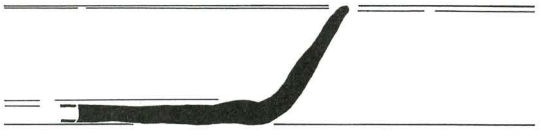

66

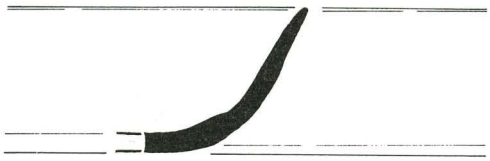

72


67


73

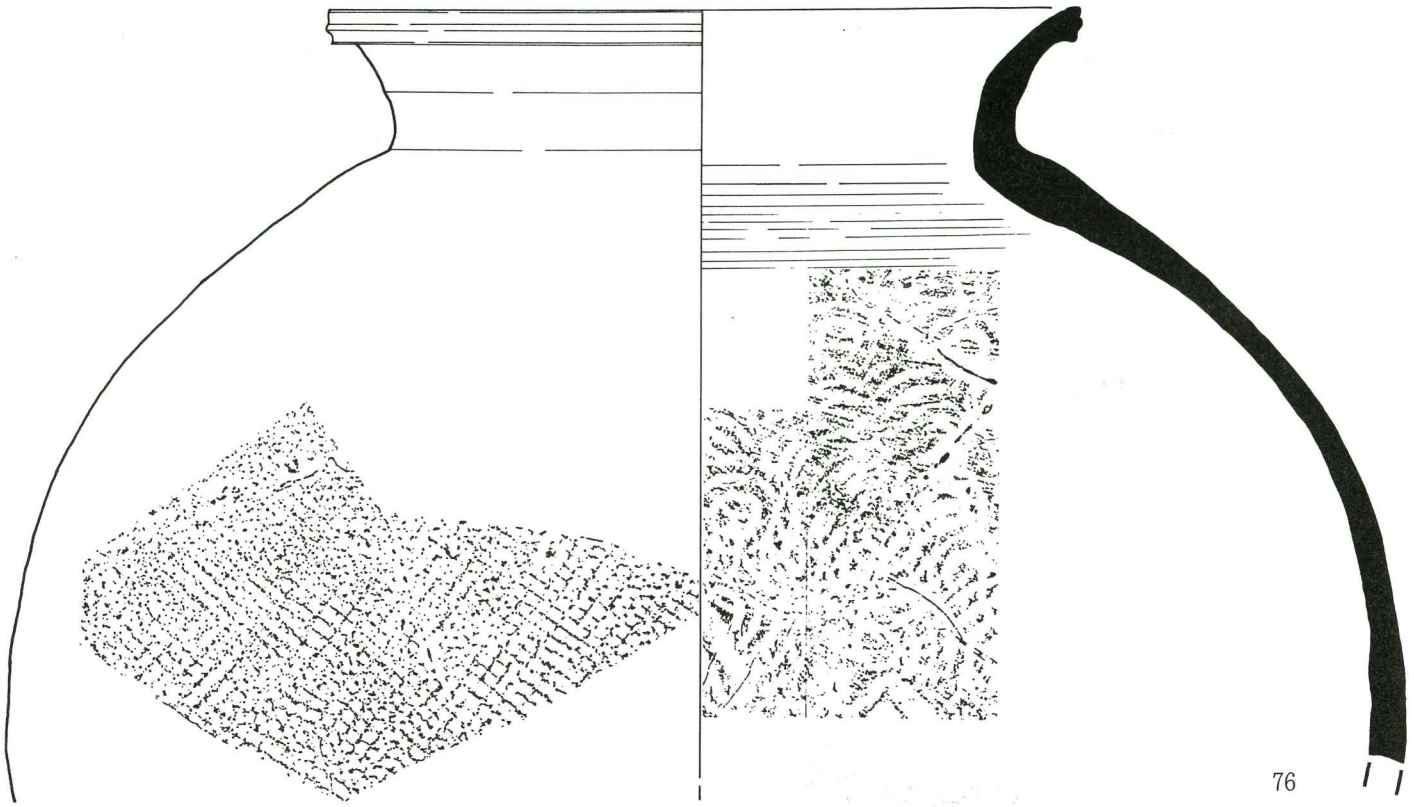

68

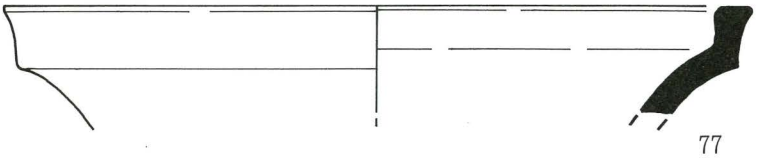

74

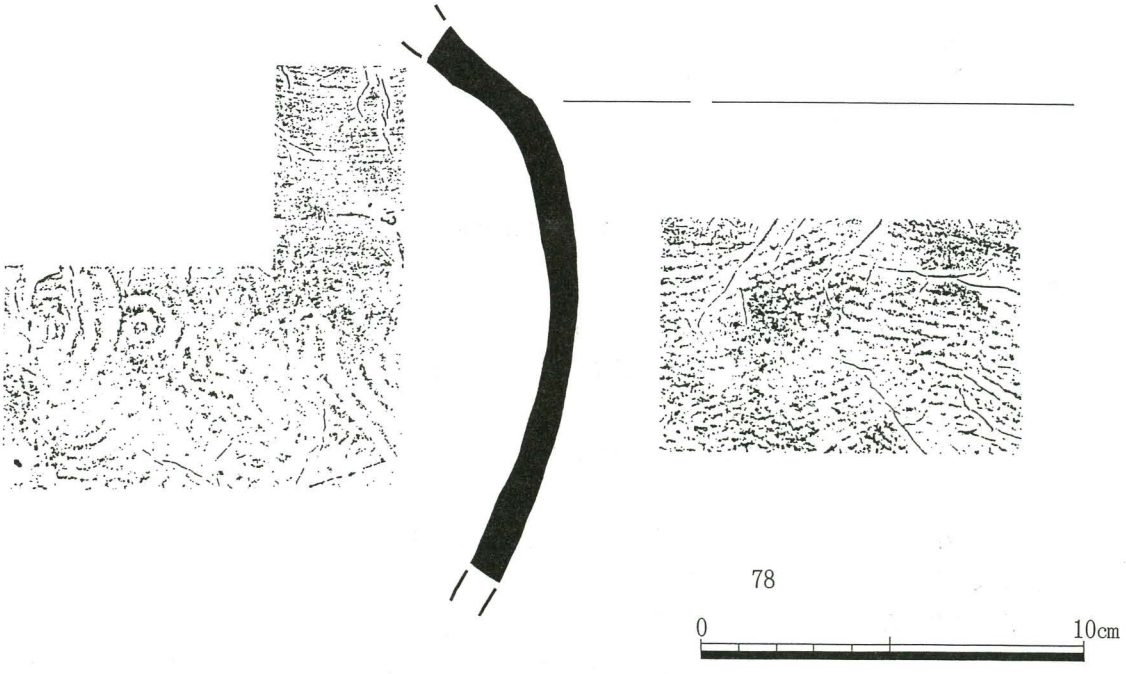

69

75

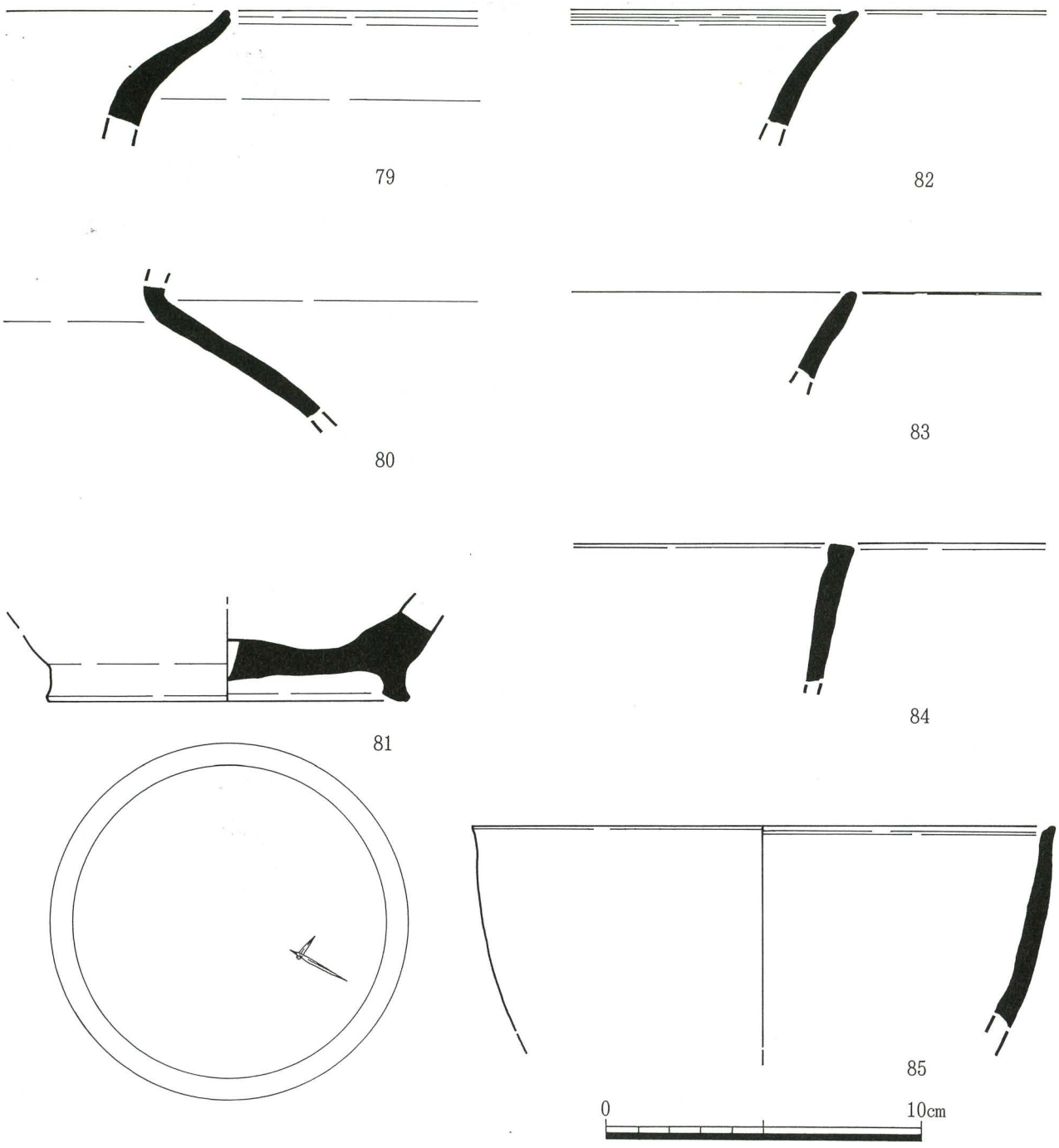
第53図　第６層出土遺物実測図⑥(S＝1／2)







第54図　第６層出土遺物実測図⑦（S＝1／2）



第55図　第６層出土遺物実測図⑧(S＝1／2)

⑧　石鎌形石器　　第63図127

127は横長の剥片を素材とし，刃部は両面側から丁寧に作り出している。刃部には使用による摩滅が顕著に確認できる。また，装着する部分には薄い剥離により形態と薄さを整えている。

⑨　扁平打製石斧　　第63図128

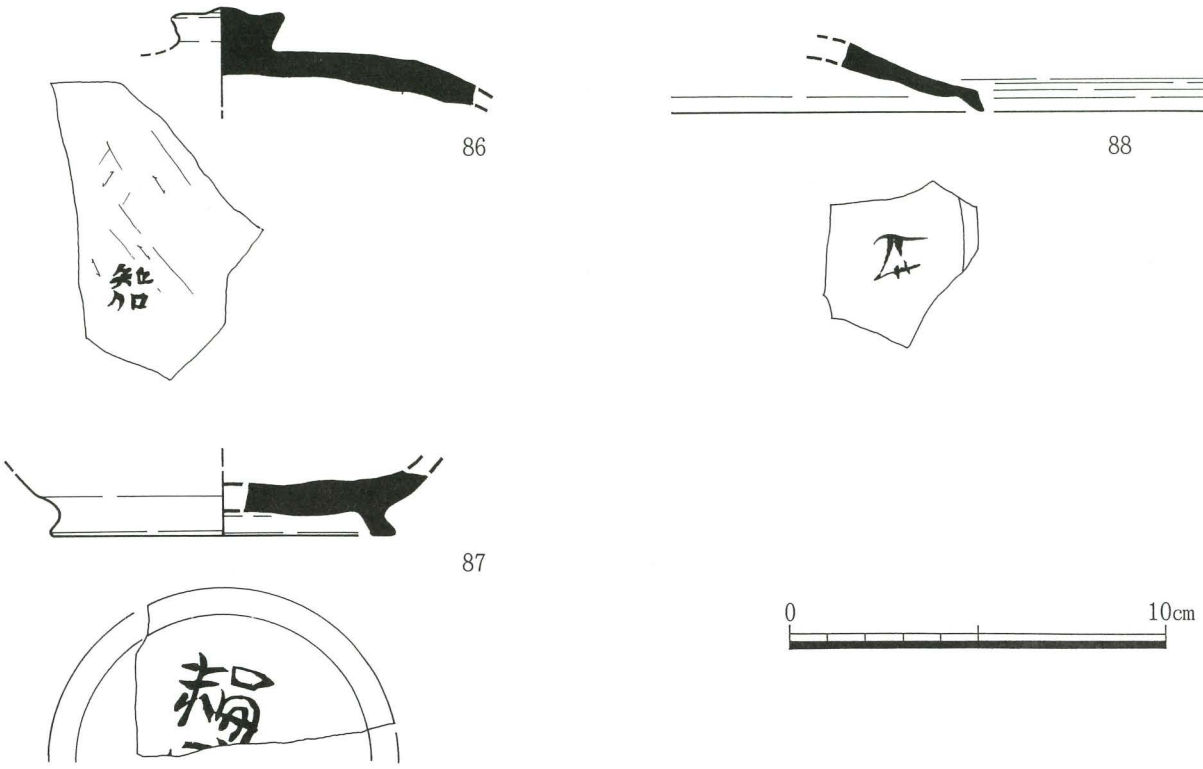
128は大まかな周辺加工によって作製されており，刃部は表面側からのみ作り出されている。

⑩　砥石　　第63図129

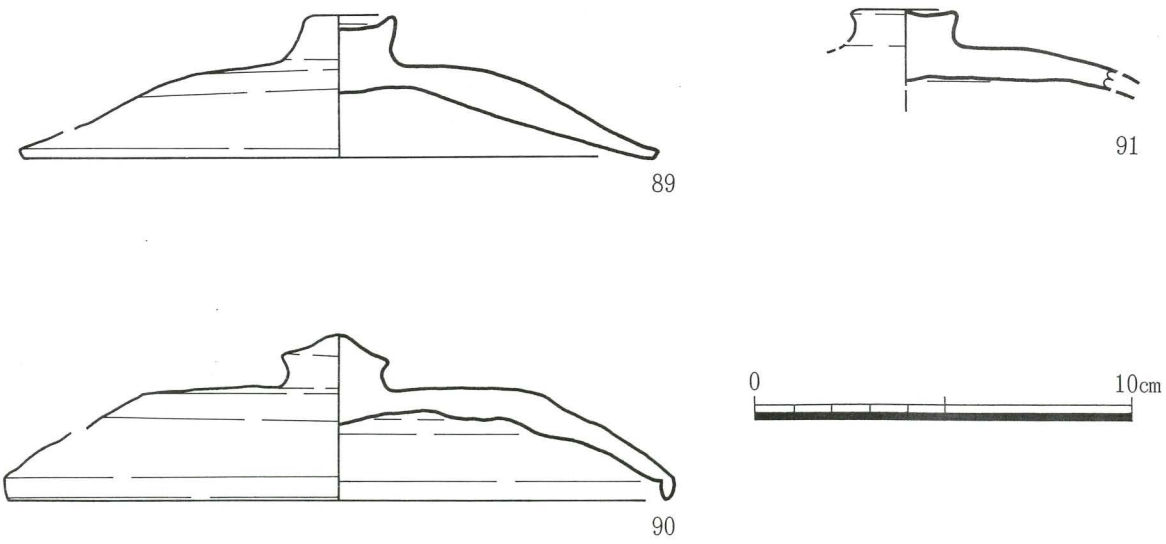
129は砂岩を用いた４面の磨面が観察される砥石である。断面観察によると，ａ・ｂ面は使用の度合いが著しく，中央部に緩い円弧状に磨面がすり減っている。

⑪　軽石製加工品　　第63図130

130は軽石を薄く楕円状に整形しており，その後ａ面の上端部に横凹線を中央部に縦凹線を一条づつ工具で切



第56図　第６層出土遺物実測図⑨(S=1／2)

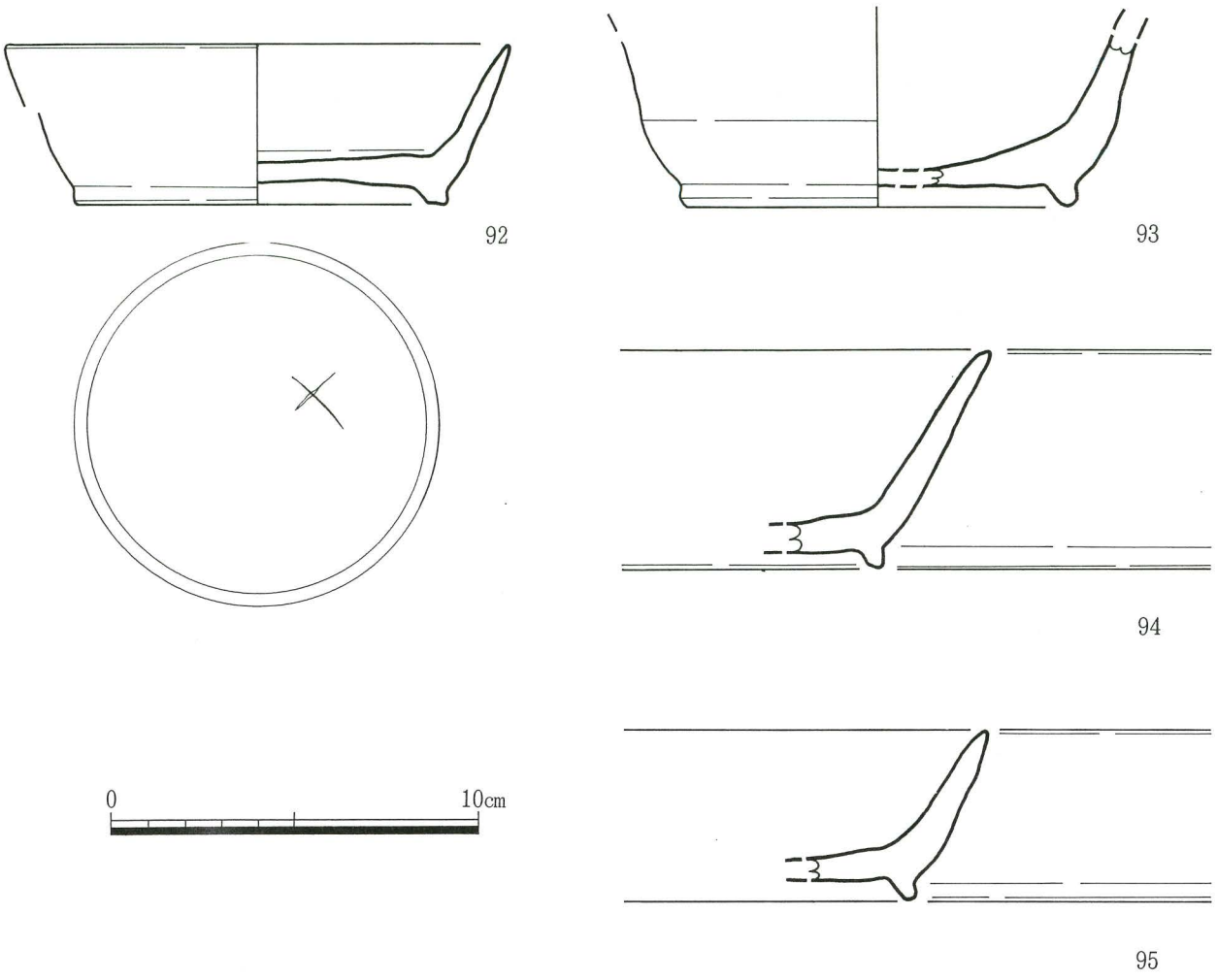


第57図　第６層出土遺物実測図⑩(S=1／2)

り刻んでいる。またｂ面も上端部に横凹線を一条切り刻んでおり，上端部は横凹線はａ・ｂ面でつながり，まるで上端部を区分するために横凹線が巡らされているように観察できる。このような整形下降の状況から「陽石」として使われた可能性も考えられる。

⑫　凹石　　第63図131～133

131は安山岩製の石材を用いており，敲打痕による凹面はａ・ｂ面に観察され，特にａ面には顕著に認められる。132は，凹面はａ・ｂ・ｃ面に顕著にされる。また，ｅ面とｅ面の反対面には著しい敲打痕が残されている。

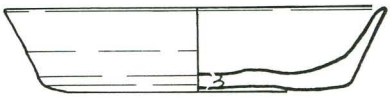


第58図　第６層出土遺物実測図⑪(S＝1／2)

ｃ面には凹面とそれを取り巻くように磨面が観察され，それらの切り合い状況から，磨石として使われていた道具を凹石に転用していることが考えられる。133は砂岩製の不整形の石材を素材としており，ａ・ｃ・ｄ面に凹面が観察される。凹面としては３面であるが，この石器は全体的に敲打痕が残されていることから，使用面として適した面と判断されれば用途に合わせて使われたと考えられる。また，132と同様にｅ面に凹面を取り巻くように磨面が観察され，その切り合い状況から，凹面として使われていた面を磨石の磨面として転用していることが考えられる。

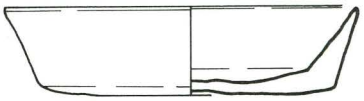
⑬　石皿　　第63図134

134は偏平な砂岩製の石材を素材としており，ａ面に使用による磨痕が確認できる。

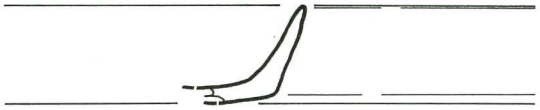


96

99



97

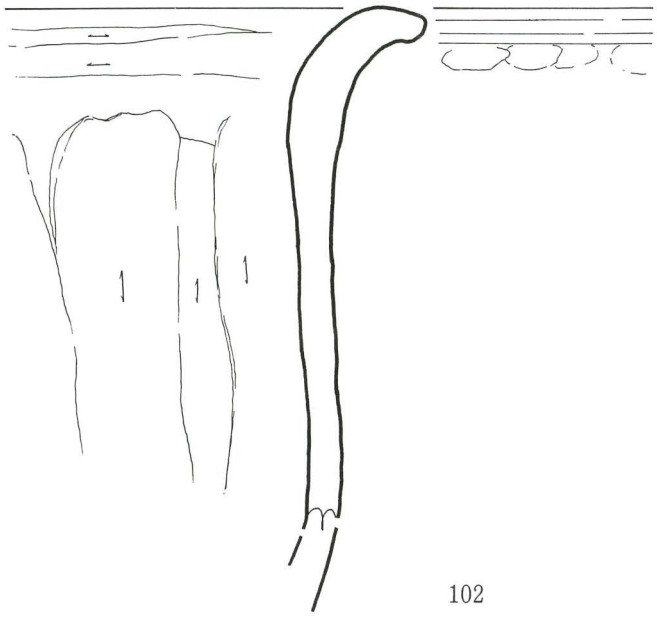


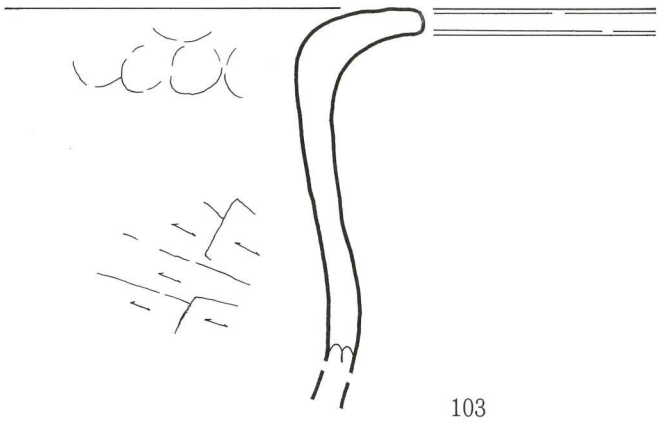
100

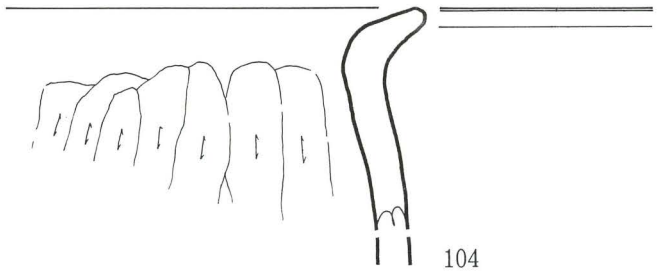
98

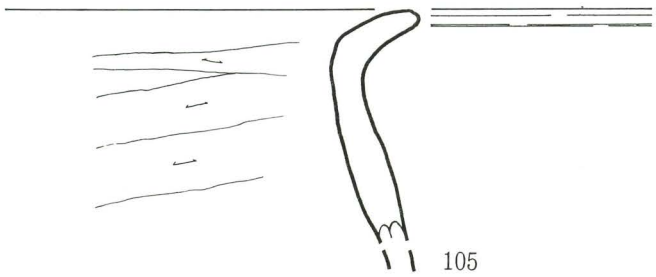
101

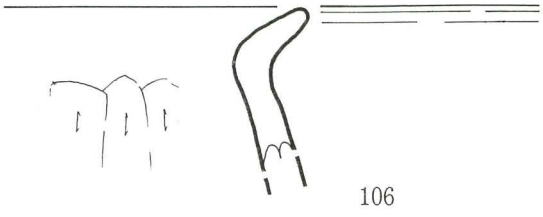
第59図　第 6 層出土遺物実測図⑫(S＝1／2)

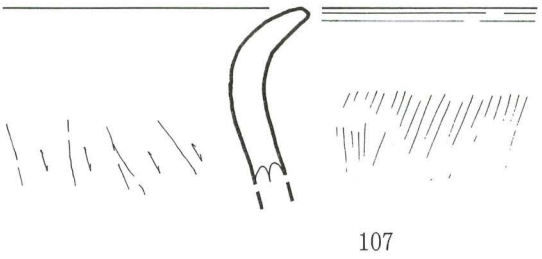


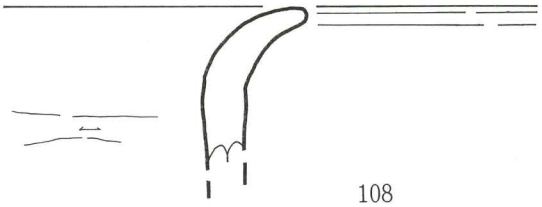


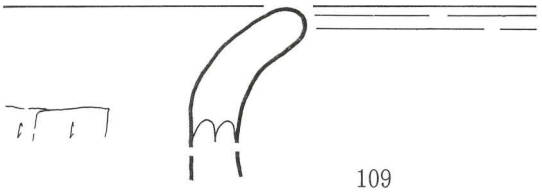


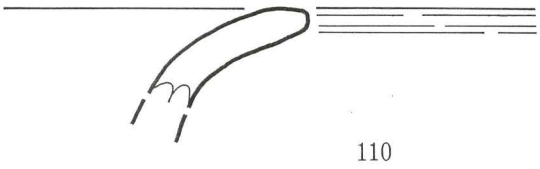


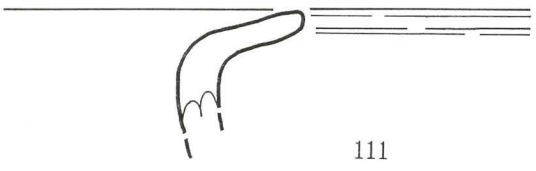




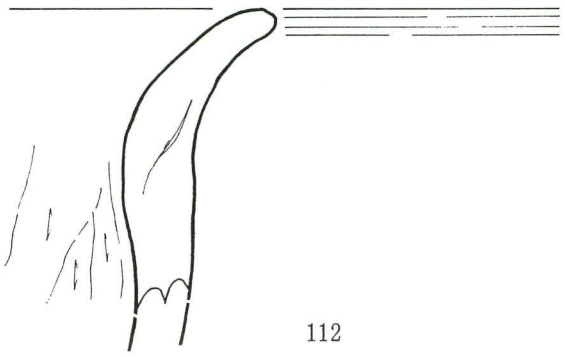




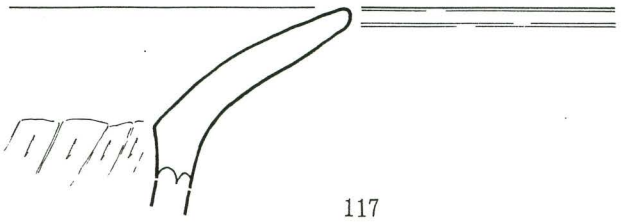




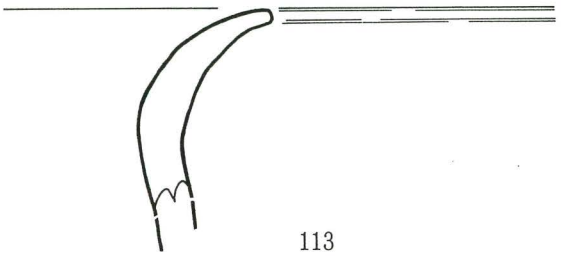
第60図　第 6 層出土遺物実測図⑬(S＝1／2)



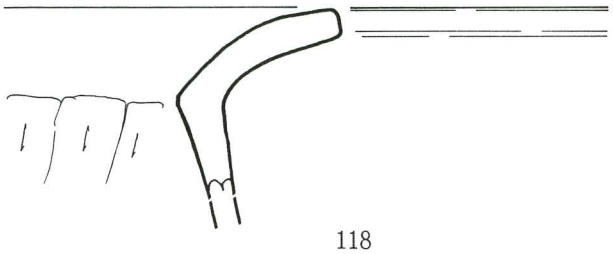
112



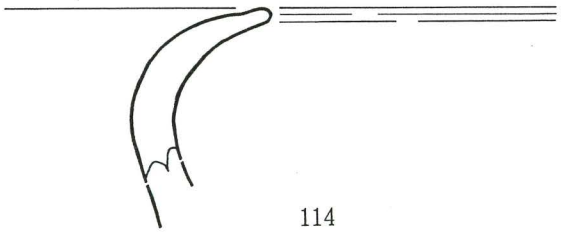
117



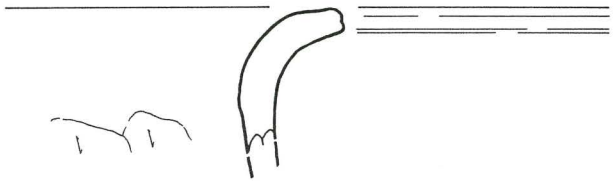
113



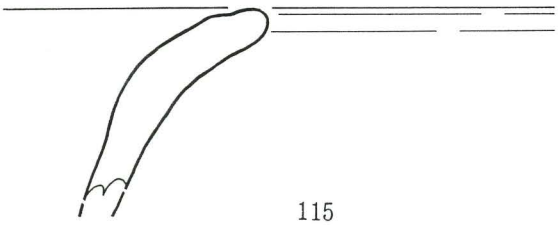
118



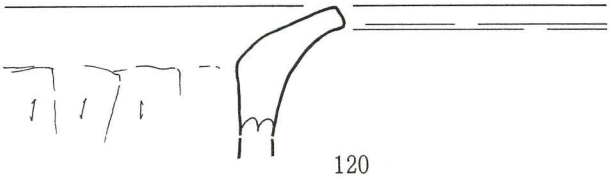
114



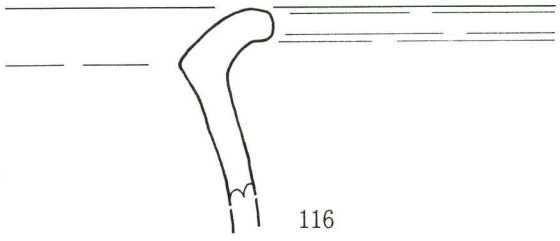
119



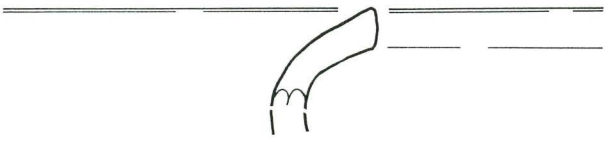
115



120

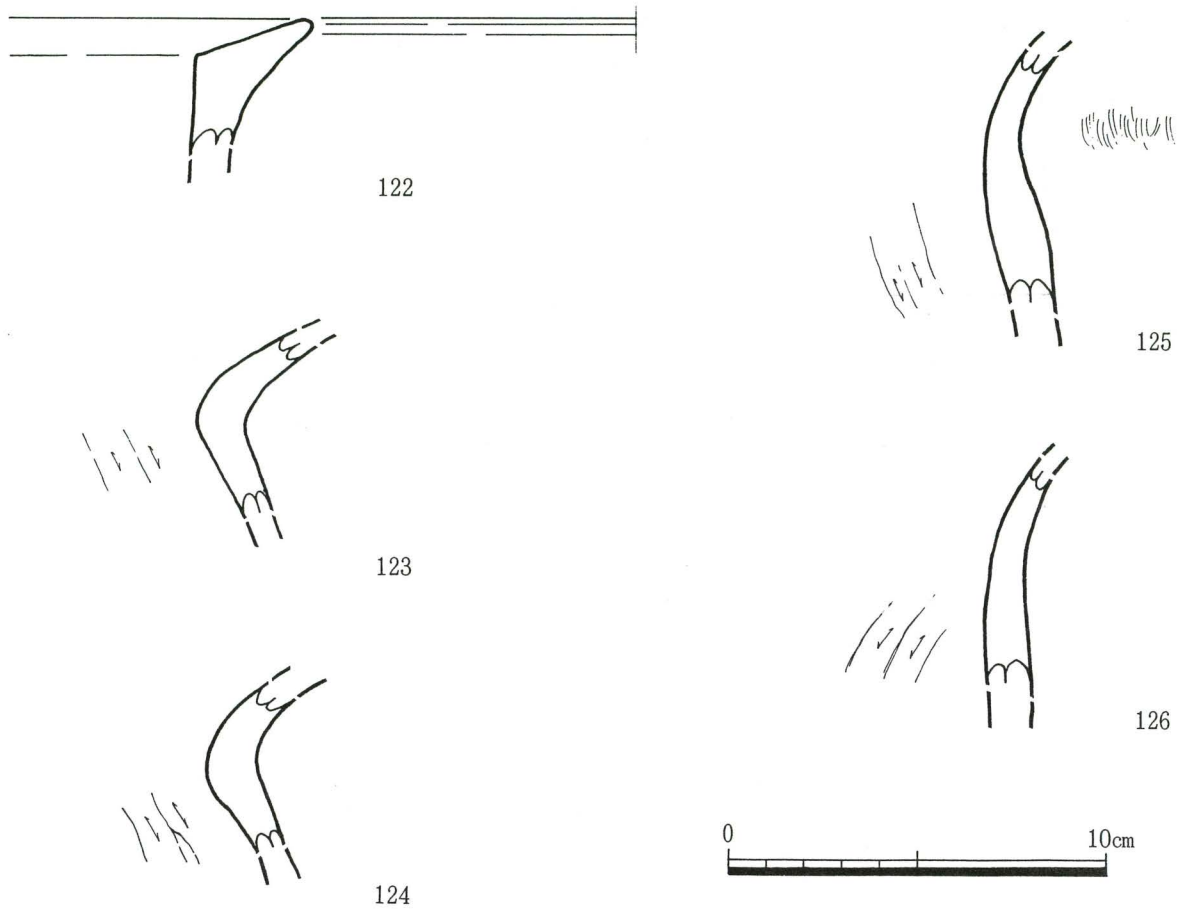


116

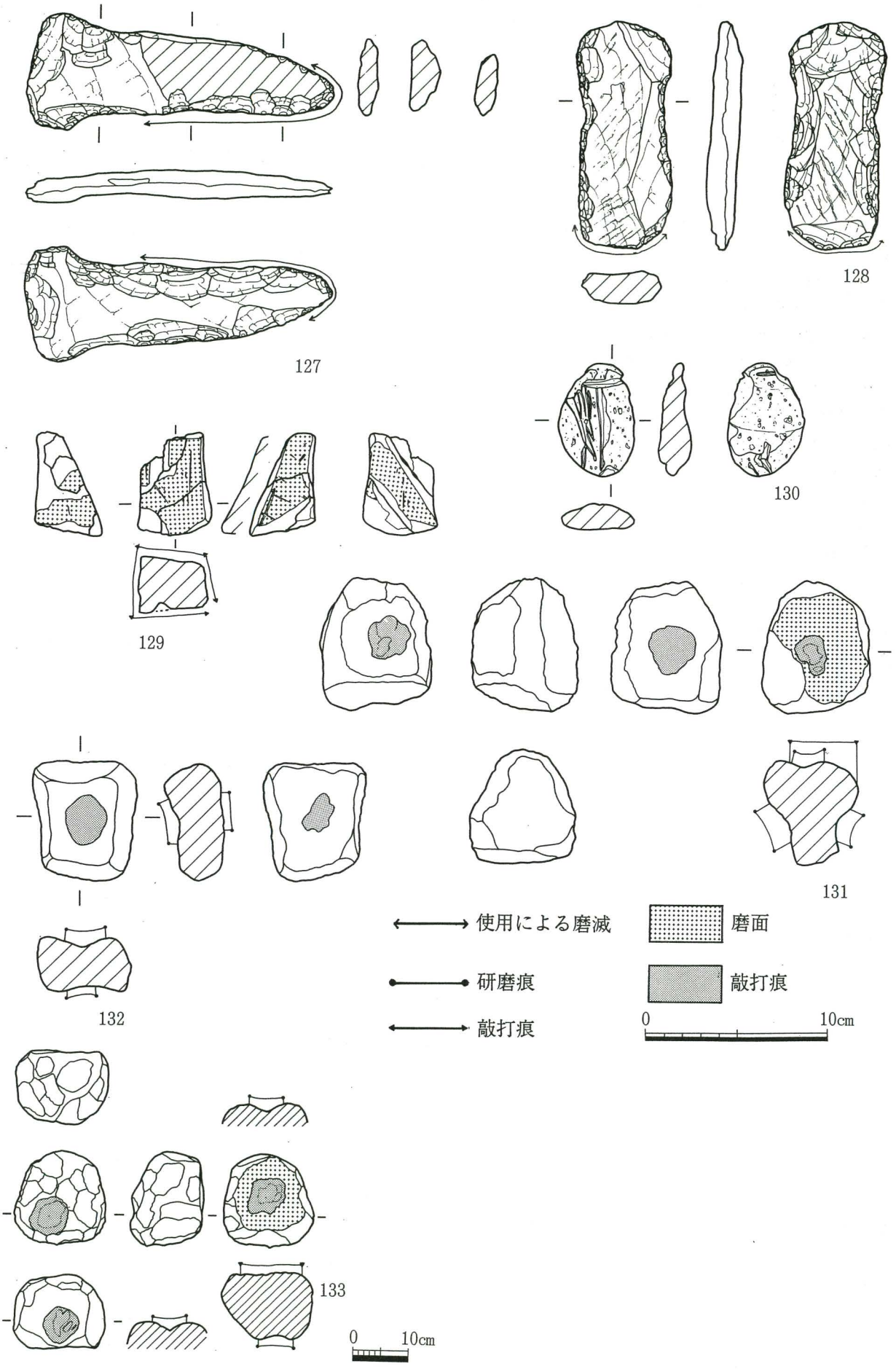


121

第61図　第６層出土遺物実測図⑭(S＝1／2)



第62図　第６層出土遺物実測図⑮(S＝1／2)



第63図　第6層出土遺物実測図⑯(S=1／2)

考　察

用途不明鉄製品について

当遺跡の総柱建物の近くから，用途不明の鉄製品が検出された。

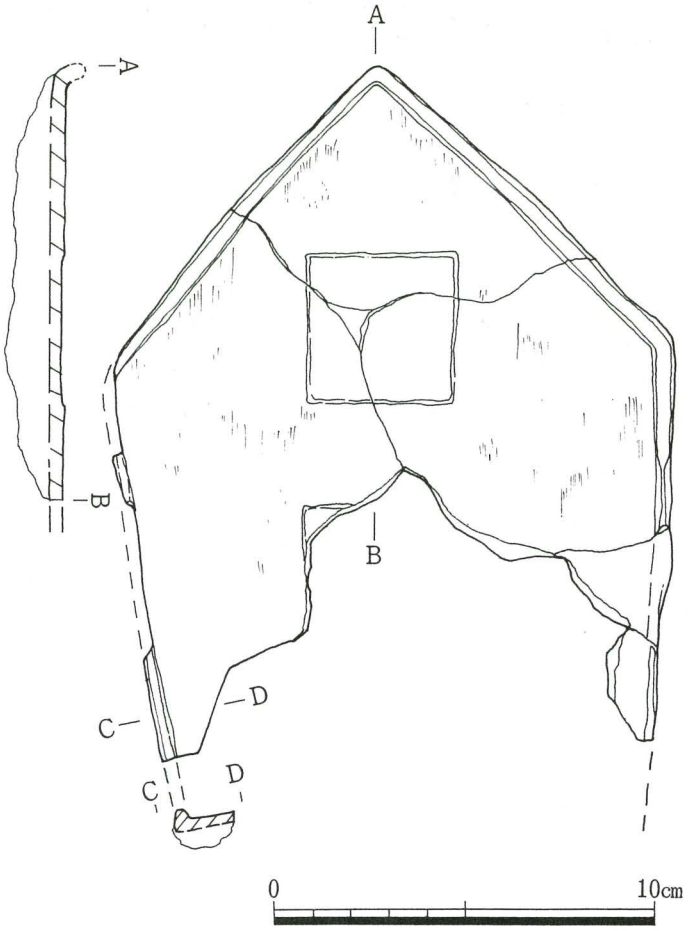
この鉄製品は，厚さが3.5㎜程度の盤状の鉄製品で，平面形が五角形（「圭形」と表現される）を呈するものと考えられるものである。

外周には５㎜程度の高さで断面「Ｕ」字形の縁が形成される。

また，盤面（縁の張出している側）では，中央部に方形の浅い窪みが２ヶ所確認される。さらに，同じ盤面には，鉄錆が条線となって残存しており，条線を伴う原体（木質？）が，この板状鉄製品の上に載っていたものと考えられる。また，その原体は，現在残っていない事から，有機質のものなどが考えられる。

この鉄製品については，管見に触れる範囲では，現在までに報告例がなく，その用途についての言及は積極的に展開できない。

しかし，縁を有する点や，何等かの同形の物を載せていた物であると考えられるものである。



第64図　第６層出土遺物実測図⑰（S＝1／2）

用途不明鉄製品の形態特徴について

本鉄製品の形態を呈する考古遺物としては，極めて少なく，棟札などに若干このような平面形が五角形を呈する例がある。

また，亀トにおいて，亀甲を平面形が五角形に加工して用いたことは，江戸時代の亀トについて伝える『津島亀ト伝記』などに残されている。この記載例では，「町」と呼ばれる方形の穴を亀甲にあけるなど，鉄製品の中央部に見られる方形の窪みを有する点など，形態的な特徴では一致する点が多いが，鉄製の板状の本製品をどのように用いたのかは不明である。

ただし，亀甲を載せた「ト盤」と呼ばれる道具についての記載があり，亀甲を直接火にかけるのではなく，亀甲を盤に載せたということが書かれていることから，「ト盤」は金属製であった可能性もある。

以上のことから，用途不明鉄製品については，現在，「棟札説」，「ト盤説」などがあるが，いずれも確定要素に欠ける。しかし，形態の近似性，「町」に符号する痕跡，「ト盤」としての機能を充足する素材性などから，「ト盤」としての状況証拠が比較的優勢であると思われる。

仮に，「ト盤」であるとすれば，「亀ト」が敷領遺跡でも行われていた可能性が出てくるが，その場合の「亀ト」がどのレベルの施設まで行われていたかという点も問題視されると考えられる。

用途不明鉄製品の表面の錆の付着条線について

用途不明鉄製品の表面の条線については，経緯線ではないことから，原体は繊維ではないと考えられる。また，骨組織と考える事も困難である。

現状では木質が原体であった可能性が高いと考えられるが，「ト盤」と考えたときに，なぜ，木質が盤面に付着し，その痕跡が残存したのかは依然不明である。

（文責　下山）

2．第９層出土遺物

第９層の出土遺物には，第65図137～146，第67図147，第68図155，156，158～161，第69図162～165，168，第70図173，174，177～180，第72図188，第73図190，194がある。

９層出土遺物の中で，最も下限を示すと考えられる遺物には，第68図157があり，これは「成川式土器」の甕形土器の口縁部～胴部突帯部である。従って，同層については，この資料から，古墳時代以降に生成された土層であると考えられる。

つまり，第９層では，弥生時代の遺物が多く包含されているが，その本来の帰属層については，第９層ではないと考えられる。

以下，第９層出土遺物について記述する。

①　甕形土器　第65図137～146，第67図147，第68図155，156，158～161，第69図162～165，168

137～140は弥生時代甕形土器である。口縁部に突帯が「Ｌ」字状に貼付され，突帯部分には，刻みが施される。刻みにはヘラ状工具，棒状工具が用いられたものと考えられる。

141～145，164，第67図147は，に断面三角形の刻みを施さない突帯を施したものである。弥生時代甕形土器である。

155～156は，胴部突帯部で刻みを施すものである。弥生時代甕形土器である。

158～161は，胴部突帯部で刻みを施さないものである。

158は，いわゆる「成川式土器」の範疇の甕形土器口縁部である。胴部に突帯が１条めぐる。

162は，「成川式土器」のうち「中津野式土器」と呼ばれる様式の中の甕形土器である。底部から肩部屈曲部までが残存する。肩部屈曲部の内面は，稜が形成されず丸みを帯びた形態を呈する。また，底部は脚台を有し，脚台内面見込部では「凸」形に突出する。脚台内面，胴部外面などには工具によるナデが施され，工具痕が観察される。

第69図163～165，167は弥生時代甕形土器の底部である。

第69図168は「成川式土器」の甕形土器の底部突帯部である。

②　壷形土器　　第70図173，174，177～180，第73図190

173は，壷形土器の底部から肩部にかけての資料である。底部は小さく平底を呈するが不安定である。

174は，壷形土器口縁部である。口縁部は「く」字状に屈曲し外反する。

177は，広口壷形土器の口縁部である。口唇部には「ハ」字状に刻みが施され，口縁部下には，刻みを施さない突帯が横位に１条，縦位に３条施されている。

178は，壷形土器口縁部である。口唇部は，ヨコナデによって平坦に仕上げられる。

179，180は壷形土器底部である。

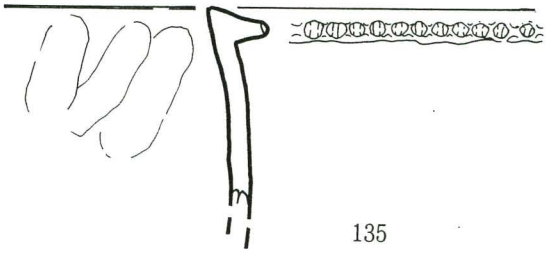
190は，無頚壷形土器の完全品である。底部は平底を呈するが，安定しない。口縁部は小さく外反する。

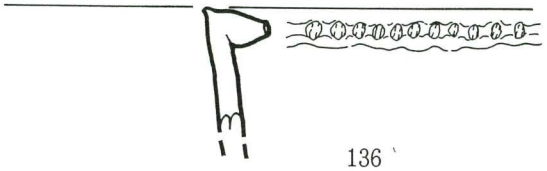
③　高坏形土器　　第72図188

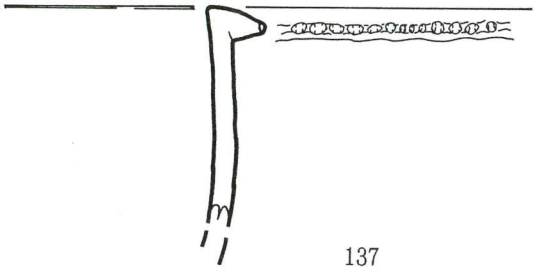
188は「成川式土器」の高坏形土器である。略完形品で内外面ともに赤色塗彩が施される。坏部体部の屈曲部は段が形成され，そこで屈曲し口縁部へほぼ直立して向かう。

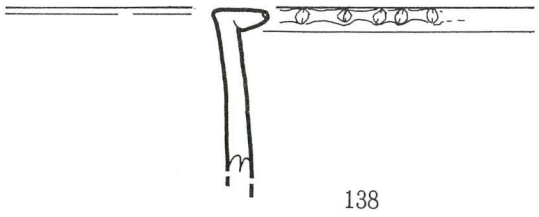
④　ミニチュア土器　　第73図194

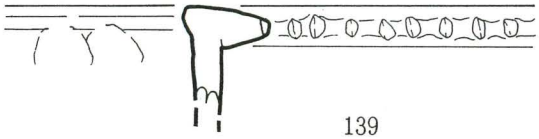
コップ形のミニチュア土器である。底部は平底であるが，安定しない。


135

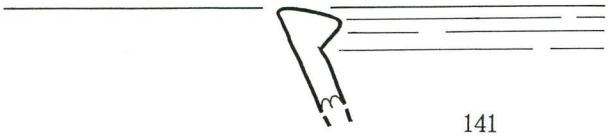

136

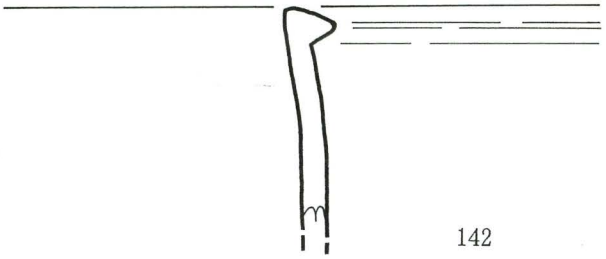

137

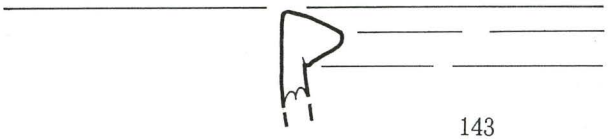

138

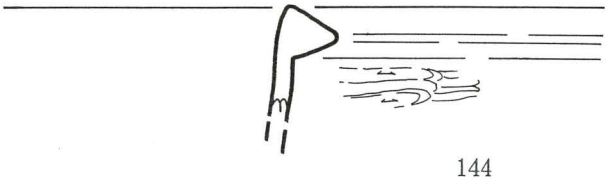

139

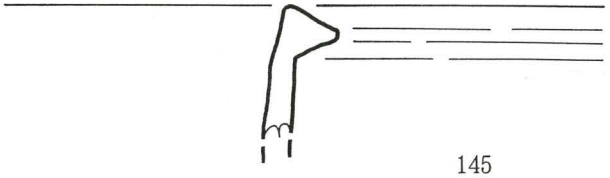
140

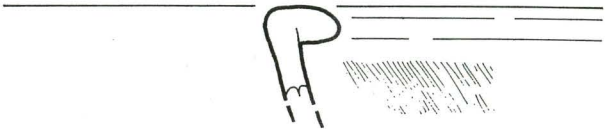

141


142


143


144

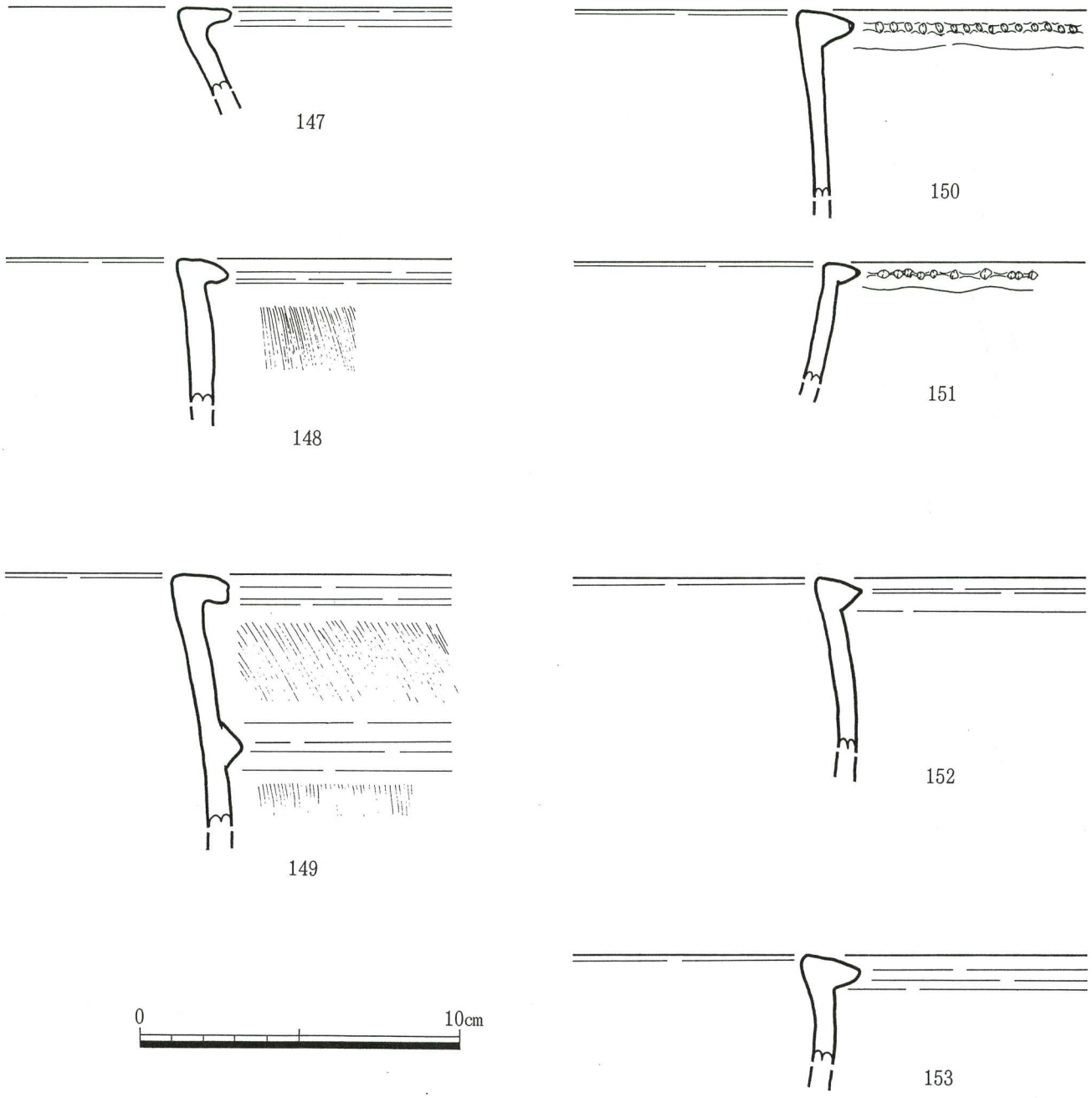

145


146

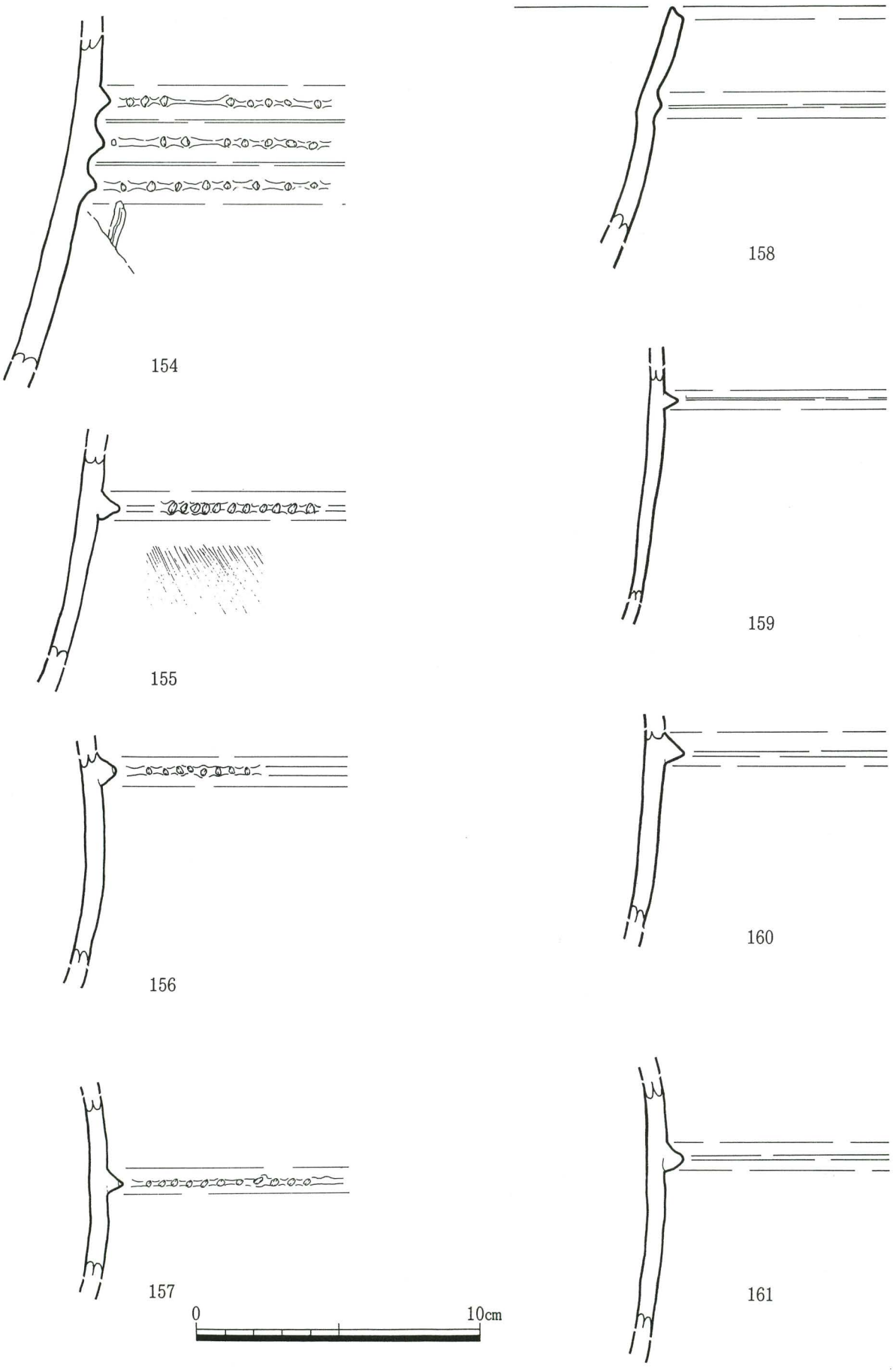
第65図　第９層出土遺物実測図①(S＝1／2)

※図中は取り上げNo.

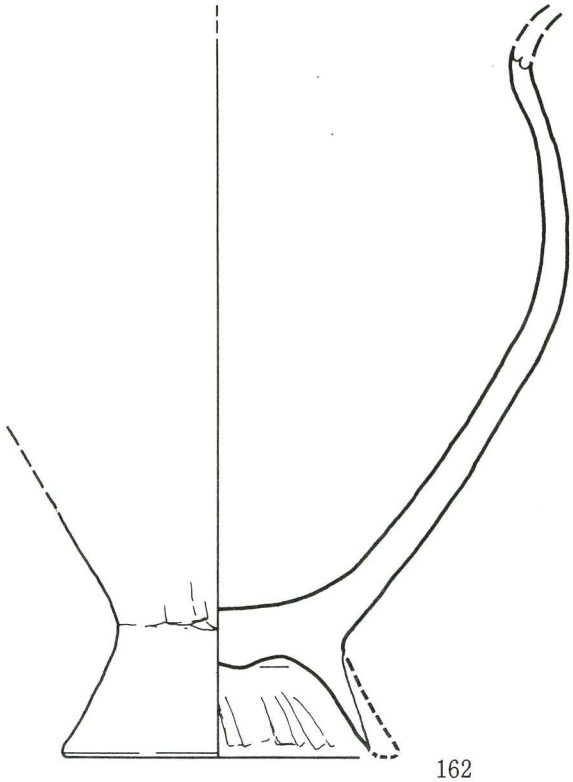
第66図　第９層及び12層遺物出土状況図(S＝1／100)



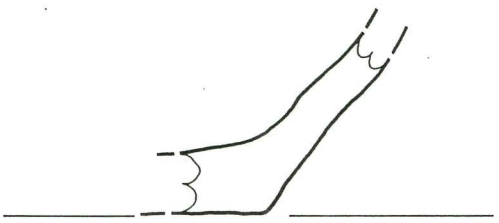
第67図　第９層，10層，12層出土遺物実測図②(S＝1／2)



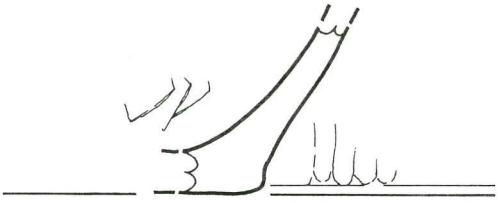
第68図　第９層，12層出土遺物実測図③(S＝1／2)



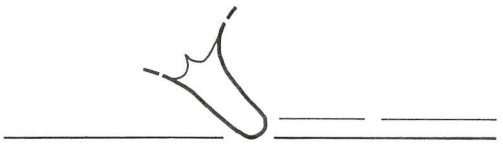
162



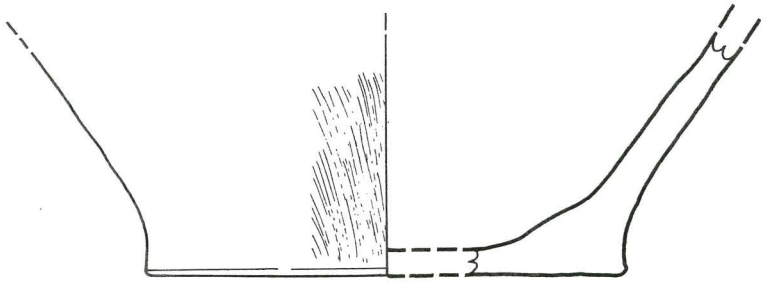
166



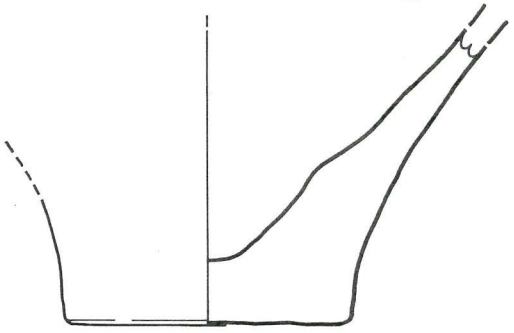
167



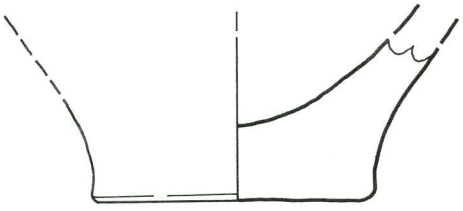
168



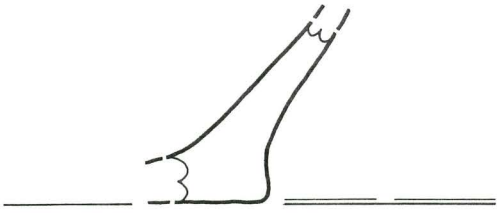
163



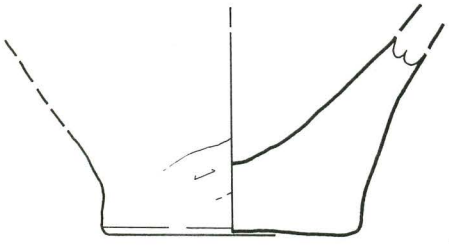
169



164

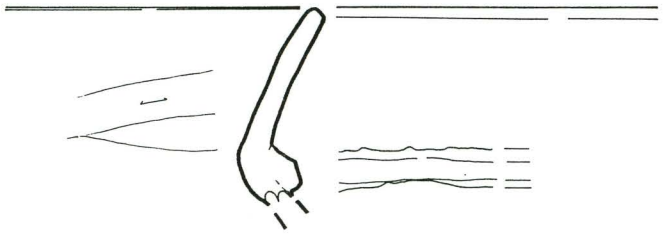


170

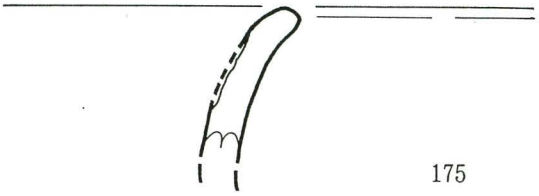


165

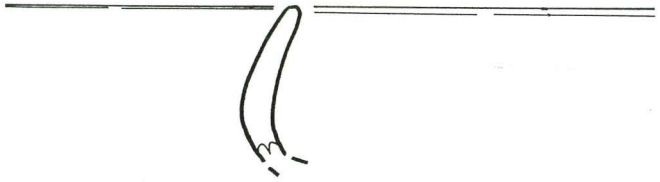
第69図　第９層，12層出土遺物実測図④(S＝1／2)



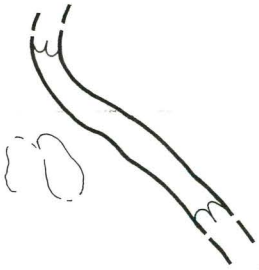
171



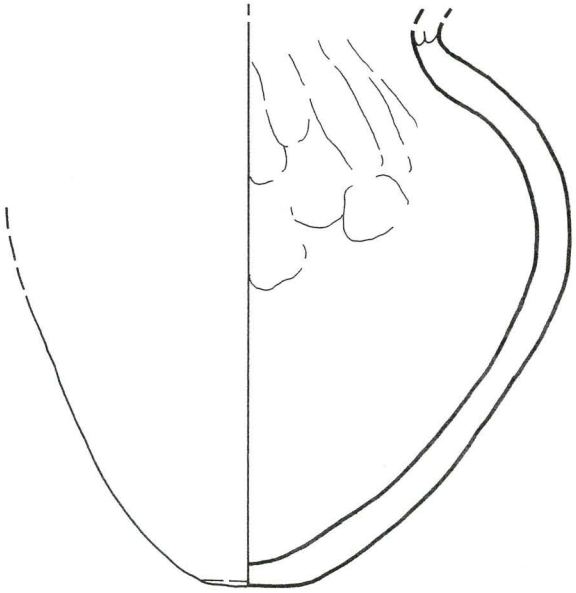
175



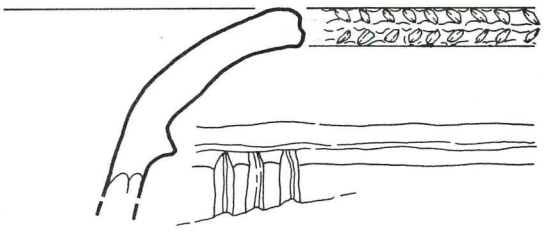
172



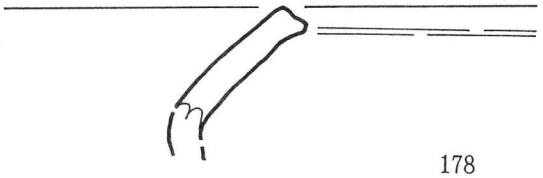
176



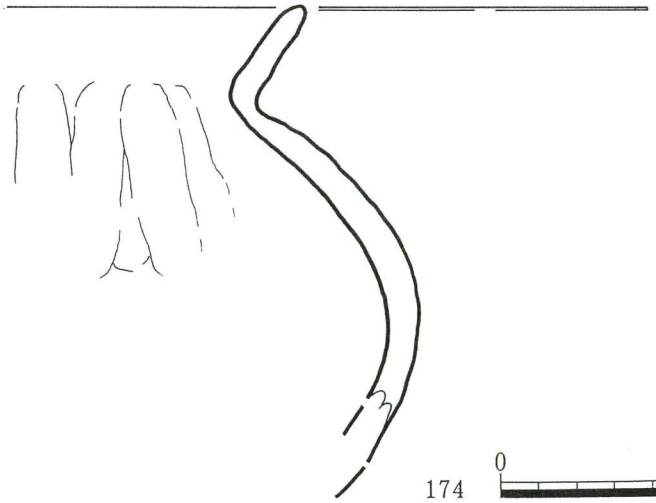
173



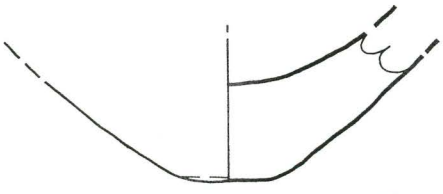
177



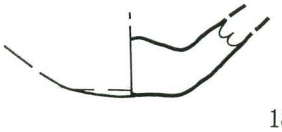
178



174



179



180

0 10cm

第70図　第６層，９層出土遺物実測図⑤(S＝1／2)

3．第10層出土遺物

第10層出土遺物には，第67図149，第69図169，第72図198がある。いずれも弥生時代の遺物と考えられるものである。

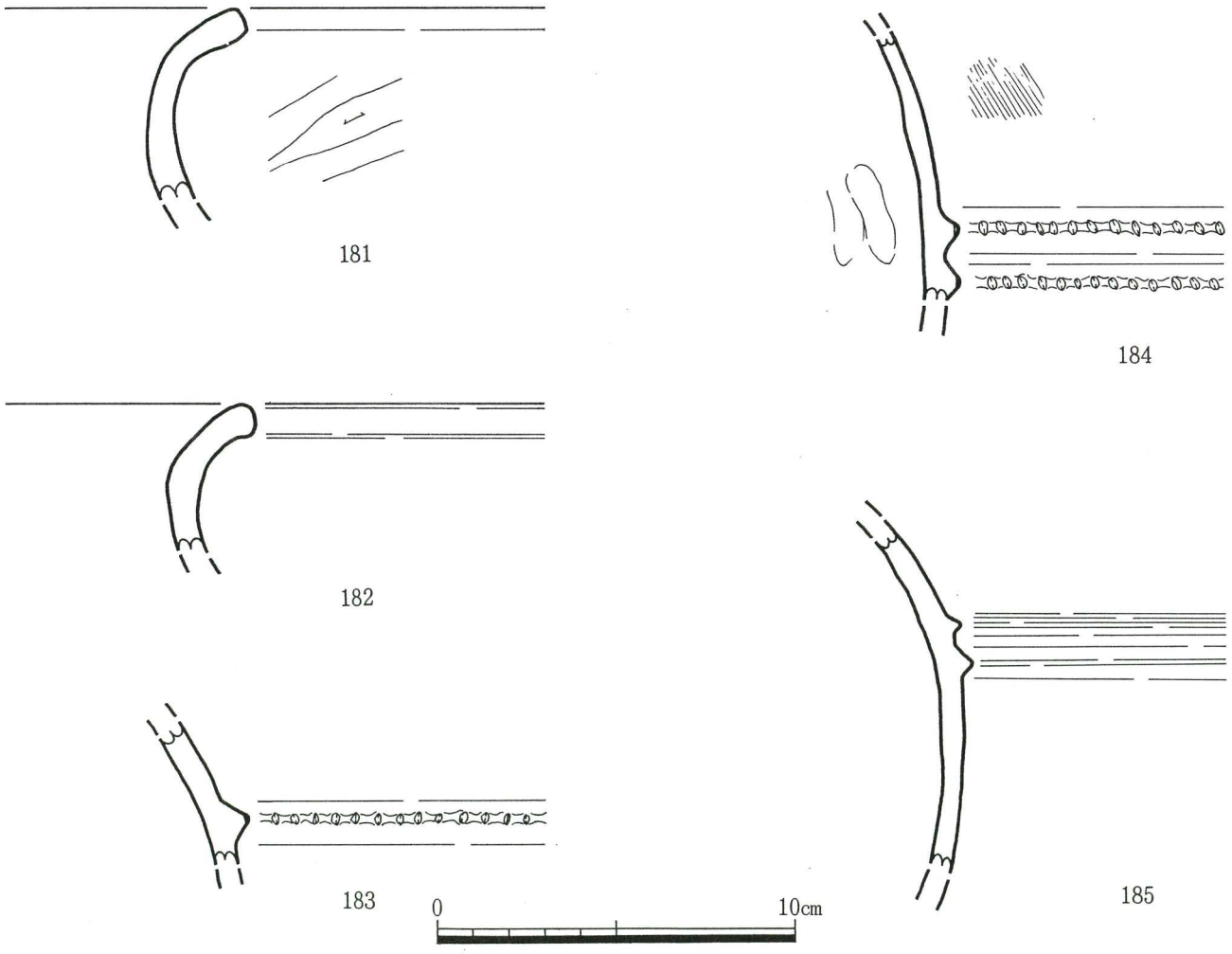
① **甕形土器**　第67図149，第69図169

149は，甕形土器口縁部である。口縁部が「L」字形を呈し，口縁部下に一条の突帯を有するものである。胴部外面にはハケメが施される。

169は，甕形土器底部で，平底である。

② **高坏形土器**　第72図189

189は，高坏形土器の坏部である。胴部屈曲部が明瞭で，胴部屈曲部から口縁部にかけてやや外反しながら直立する。



第71図　第12層出土遺物実測図(S＝1／2)

第12層出土遺物

第12層出土遺物には，第67図150～153，第69図170，第71図181～185がある。いずれも弥生時代の遺物と考えられるものである。

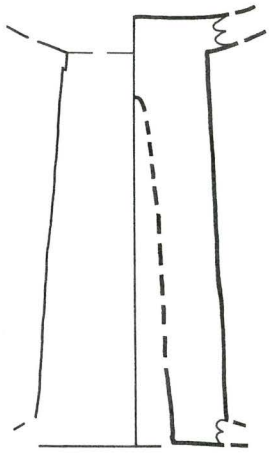
① **甕形土器**　第67図150～153，第69図170

150～153は甕形土器の口縁部である。口縁部には断面三角形の突帯が施され，第67図150，151は刻みが施される。一方，152，153は，刻みが施されない。第69図170は，甕形土器底部で平底を呈する。

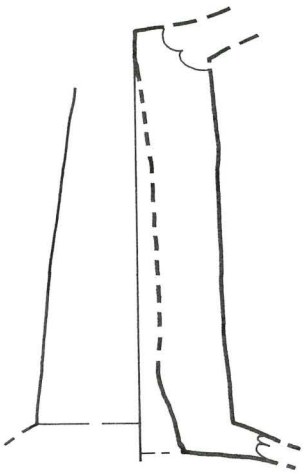
② **壺形土器**　第71図181～185

181，182は壺形土器口縁部である。口縁部は外反し口唇部はヨコナデにより，平坦に仕上げられる。

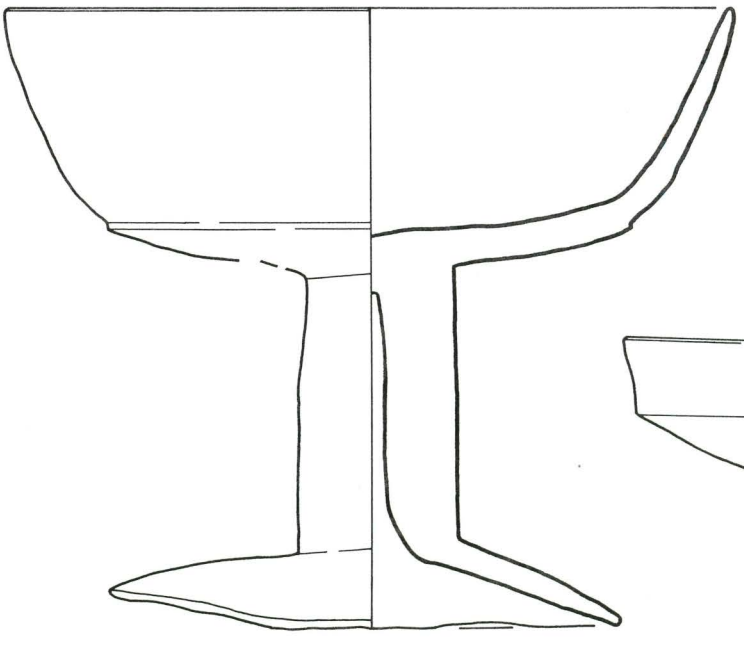
183～185は壺形土器の胴部突帯部である。183は刻みを施す突帯が1条，184は刻みを施す突帯が2＋α条貼付される。184は刻みを施さない突帯が2条貼付されている。



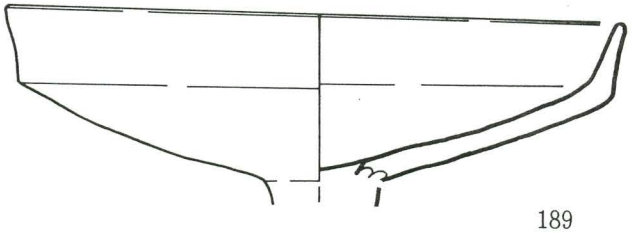
186



187

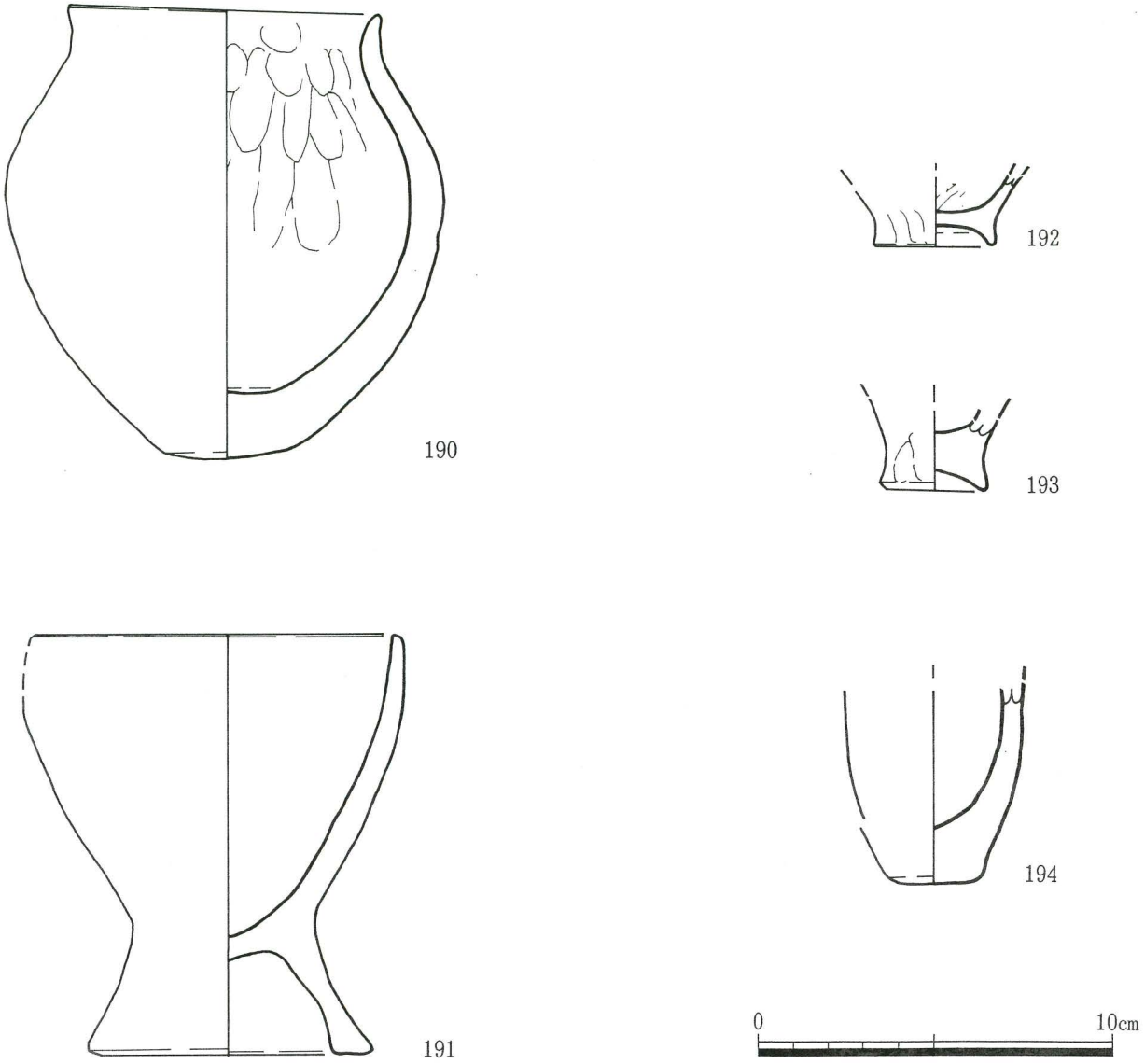


188



189

第72図　第6層，9層，10層出土遺物実測図(S＝1／2)



第73図　第９層出土遺物実測図(S＝1／2)

＜参考文献＞

熊本県教育委員会・松本健郎・勢田広行　1980『第Ⅳ章遺跡解説　Ⅰ荒尾窯跡群』「生産遺跡基本調査報告書」Ⅱ　熊本県教育委員会　熊本市

中村直子　1987『成川式土器再考』「鹿大考古」第６号　鹿児島大学法文学部考古学研究室　鹿児島市

金峰町教育委員会・宮下貴浩　1995『山野原遺跡』「農地土地利用変更に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」金峰町教育委員会　鹿児島市

下山覚　1992『指宿市橋牟礼川遺跡出土の須恵器台付長頸壷の年代比定とその意義について』「人類史研究」第８号　人類史研究会　鹿児島市

下山覚　1993『橋牟礼川遺跡の「被災」期日をめぐる編年的考察』「古文化談叢」第30集（下）古文化談叢発刊20周年小田富士雄代表還暦記念論集（Ⅲ）九州古文化研究会　北九州市

指宿市教育委員会・下山覚他　1996『橋牟礼川遺跡ＸⅠ』「史跡等活用特別事業に伴う国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡確認調査報告書」指宿市教育委員会　鹿児島市

（文責　下山）

遺物観察表 1

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 ㊥	色 ㊦	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
1	溝中	1/8~1/9残存	壷形土器	口縁部	7.5YR7/6	7.5YR8/3 2.5YR6/6	2.5YR6/1 7.5YR7/3	−	砂粒を含む 細砂粒を若干含む	㊀㊁㊂㊃ 外	㊦ナデ ㊥ヨコナデ	傾き若干ギモン 良好	
2	溝中	1/6~1/7残存	壷形土器	口縁部	7.5YR8/4	7.5YR8/4	10YR5/1	−	砂粒を若干含む	㊀㊁㊂外	㊦ナデ ㊥ナデ 口唇ヨコナデ	傾き若干ギモン 良好	
3	溝中	破片	甕形土器	底部	7.5YR7/4	−	7.5YR7/4	脚内 7.5YR7/4	細砂粒を若干含む	㊀㊁外	㊥ナデ 脚内ナデ	良好	
4	溝中	破片	甕形土器	底部	10YR7/3 5YR7/6	−	7.5YR8/3	脚内 10YR7/2	細砂粒を若干含む	㊀㊁㊂外	㊥ナデ 脚内ナデ	良好	
5	3	底1/1残存 底2.6cm 胴1/1残存 胴最大15.4cm	小型壷	底部~胴部	2.5YR6/8 N2/0 7.5YR7/3	5PB4/1 7.5YR6/1	2.5YR6/8 5R5/1	底 2.5YR6/8	砂粒を若干含む 細粒を含む	㊀㊁㊂外	㊦ナデ 脚内ハクラク	良好	
6	4	胴1/1残存 胴最大13.3cm	小型壷	胴部	2.5YR6/6 10YR2/1	2.5YR6/6 10R3/1	2.5YR6/8 7.5YR7/2	−	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	㊀㊁㊂外	㊦ナデ ㊥ミガキ，マメツ	良好	
7	896	口1/2残存 口12cm	壷形土器	口縁部	10YR7/3 2.5Y5/1	2.5Y5/1	2.5Y5/1	−	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	㊀㊁㊂黒 外	㊦ナデ ㊥ナデ	※SA－2埋土中出土	974
8	974	Ⅰ1/3残存 Ⅱ(復元)10.4cm 1/2~1/3残存 底3.5cm	壷形土器	口縁部~底部	2.5YR6/6 5YR4/2 7.5YR6/3	7.5YR7/3 10YR5/2	7.5YR6/2 10YR5/1	−	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	㊀㊁㊂外	㊦ハケメのちナデ，ナデ，ユビオサエのちナデ ㊥ タテ，ハケメのちナデ，ハケメのちナデ一部ミガキ 底ナデ 口唇ヨコナデ	良好 ハケメ6本/9cm	884，886，888
9	979	破片	甕形土器	口縁部~頸部	5YR7/6 5YR4/1	2.5YR6/6 5YR5/2	5YR4/1	−	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	㊀㊁外	㊦工具によるナデのちナデ ㊥工具によるナデのちナデ 口唇ヨコナデ	マス付着	
10	977	破片	甕形土器or鉢形土器	口縁部	10YR5/3 10YR4/1	N3/0	7.5YR7/2	−	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	㊀㊁㊂黒 外	㊦工具によるナデのちナデ ㊥工具によるナデのちナデ 口唇ヨコナデ	良好	
11	SA－2		高坏形土器	口縁部~頸部	7.5YR8/4 2.5YR5/2	7.5YR7/4 10YR5/1	10YR6/1 7.5YR7/3	−	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㊀㊁㊂黒 外	㊦工具によるナデのちナデ ㊥工具によるナデのちナデ 口唇ナデ	良好	
12	978	底1/1 底3.2cm	ミニチュア甕形土器	底部	7YR7/4 2.5YR4/1	5YR6/2	5YR5/2	脚内 7.5YR7/4	砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む	㊀㊁㊂黒 赤外	㊦ナデ ㊥ユビオサエのちナデ 脚内ナデ	良好	970 971
13	972	破片 残長7.3cm 短4.2cm 厚3.2 重140g	砥石										
14	2(9層)	長4.8cm 短3.7cm 厚1.7cm 重10g	軽石製加工品										
15	802	長14.7cm 短7.8cm 厚2.5cm 重360g	偏平打製石斧										
16	916	長25.8cm 短18.3cm 厚15.0cm	受熱礫							安山岩			
17	951	口7.2cm 胴最大10.1cm 底4.7cm 高8.6cm	坩形土器	完形	2.5YR6/4	7.5YR7/4	−	底 2.5YR6/4	砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む	㊂外	㊦ミガキややマメツ，スリップ赤色塗彩 ㊥ミガキややマメツ，スリップ赤色塗彩 底ミガキややマメツ，スリップ赤色塗彩	良好	
18	一般，SA3	破片	壷形土器(弥生時代)	突帯部	7.5YR7/6 5YR5/2	2.5YR6/4	7.5YR6/3 2.5Y3/1	−	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㊀㊁㊂黒 外	㊦ナデ ㊥ナデ 突ヨコナデ	傾きギモン 良好	
19	624	ツマミ3/4残存	須恵器蓋	−	2.5Y4/1	2.5YR7/4	10R6/4 10Y6/1	−	微砂粒を微量含む	㊁外	㊦回転ナデのちナデ ㊥回転ナデのちナデ	良好	

㊂白色粒、黒黒色粒，㊀カクセン石、㊁セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 2

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 ㊙	色 ㊥	色 ㊦	色 ㊧	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
20	160	ツマミ1/1残存	須恵器蓋	−	10Y7/1	10Y7/1	10Y7/1	−	細砂粒を微量含む	㊦外	㊥回転ナデのちナデ ㊙回転ナデのちナデ	良好	
21	183	ツマミ1/1残存	須恵器蓋	−	Y8/1	5Y8/1	5Y8/1	−	砂粒を微量含む	㊦外	㊥回転ナデのちナデややマメツ ㊙回転ナデのちナデ	良好	
22	184	1/1残存 略完形 ㊐14.2cm ㊟2.1cm	須恵器蓋	−	N6/0	N6/0	N6/0	−	細砂粒を微量含む	㊦㊐外	㊥ナデややマメツ円滑面あり ㊙回転ナデのちナデややマメツ ㊐㊢ヨコナデ	良好	
23	758	ツマミ1/1残存	須恵器蓋	−	5YR5/1 10R4/4	7.5YR5/1	7.5YR5/1	−	細砂粒を微量含む	㊐外	㊥回転ナデのちナデ ㊙回転ナデ	良好	173
24	692	㊐ 1/4~1/3残存 ㊐ (復元)15.2cm	須恵器蓋	−	N6/0	N6/0	N6/0	−	微砂粒を微量含む 細粒を含む	㊦外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	良好 反転	695
25	699	破片	須恵器蓋	口縁部	5Y5/1	5Y5/1 10YR7/3	10YR7/3	−	細砂粒を若干含む	㊦㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾きギモン 良好	
26	444	破片	須恵器蓋	口縁部	2.5Y5/1 10YR7/4	10YR7/4	5YR7/3	−	微砂粒を微量含む	㊦㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	良好	
27	766	破片	須恵器蓋	口縁部	10YR6/2	7.5YR7/3	7.5YR7/3 2.5YR6/3	−	細砂粒を微量含む 砂粒を微量含む	㊦㊐㊗外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	良好	701
28	765	破片	須恵器蓋	口縁部	2.5Y6/1	2.5Y6/1	5YR7/2 5YR6/1	−	細砂粒を微量含む	㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾き若干ギモン 良好	702, 同一
29	171	破片	須恵器蓋	口縁部	7.5Y7/1	2.5Y7/1	7.5Y7/1	−	細砂粒を微量含む	㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾きギモン 良好	
30	159	破片	須恵器蓋	口縁部	5Y6/1	5Y6/1	5Y6/1	−	微砂粒を含む	㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾きギモン 良好	161
31	707	破片	須恵器蓋	口縁部	10YR5/1	N4/0	2.5YR6/1	−	細砂粒を若干含む	㊦外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	良好 傾き若干ギモン 自然釉若干付着	
32	6層・一般	破片	須恵器蓋	口縁部	5Y6/1	5Y7/1 10BG5/1	10RY6/2	−	細砂粒を若干含む	㊦㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾き若干ギモン 良好	
33	697	破片	須恵器蓋	口縁部	N6/0 N5/0	N6/0	N6/0	−	微砂粒を含む	㊐外	㊥回転ナデ, マメツ ㊙回転ナデ, マメツ	傾きギモン	
34	762	破片	須恵器蓋	口縁部	N4/0	N4/0	10R5/2 N4/0	−	細砂粒を若干含む	㊦㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾きギモン 良好	
35	775	破片	須恵器蓋	口縁部	N6/0	N6/0	N6/0	−	微砂粒を含む	㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ		776
36	一般	破片	坩形土器	口縁部	N4/0	N4/0	N4/0	−	細砂粒を若干含む	㊦外	㊥ナデ ㊙回転ナデ	良好	
37	610	破片	壷形土器 (弥生時代)	口縁部	10Y5/1	10Y5/1	10Y5/1	−	細砂粒を微量含む 砂粒を微量含む		㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾き若干ギモン 良好	
38	6層・一般	破片	須恵器蓋	口縁部	N5/0	5B4/1	5B6/1	−	細砂粒を若干含む	㊦㊐外	㊥回転ナデ ㊙回転ナデ	傾き若干ギモン 良好	

㊐白色粒、㊗黒色粒, ㊕カクセン石、㊦セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 3

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
39	260	破片	須恵器蓋	口縁部	10G6／1	10G6／1	10G6／1	−	微砂粒を若干含む	白 外	内 回転ナデ 外 回転ヘラケズリのちナデ	良好	
40	659	破片	須恵器蓋	口縁部	N7／0	10BG4／1	2.5Y7／1	−	微砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む	白 外	外 回転ナデ，自然袖	良好	
41	552	口 1／2~1／3残存 口 15.2cm 底 1／1残存 底 8.6cm 高 4.7cm	須恵器坏	−	N4／0	N4／0	N4／0	高台内 N4／0	細砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	七 白 外	内 ナデ 外 ナデ 高台内 ナデ	良好	188，548，558，561，579，645，646，648，651，652，654，678
42	399	底 1／1残存 底 9.2cm	須恵器坏	−	N4／0	N4／0	N4／0	高台内 N4／0	細砂粒を若干含む	七 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ナデ	良好 反転	323，324，330，379，389，401，506，589，590，605，649，759
43	465	口 1／5~1／6残存 口 (復元)13.2cm 底 1／2残存 底 8.5cm 高 4.2cm	須恵器坏	−	N5／0 N3／0	N5／0	N5／0	高台内 N5／0	細砂粒を若干含む	白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	良好 反転	314，344，813，814
44	186	底 1／1残存 底 7.5cm	須恵器坏	−	N4／0 5Y7／1	N4／0	N4／0	高台内 10Y6／1	細砂粒を若干含む	七 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	良好 反転	300，314，460，467，656
45	724	口 1／3~1／2残存 口 13.1cm 底 1／3~1／2残存 底 8.7cm	須恵器坏	−	N5／0	N5／0	N5／0	高台内 N5／0	細砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	七 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	良好	690，714，723
46	286	口 1／4~1／5残存 口 13.5cm 底 1／5~1／6残存 底 9.8cm	須恵器坏	−	N5／0	N5／0	N5／0	高台内 N5／0	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 ヨコナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	焼成良好 反転	235，317，321
47	56	口 1／3残存 口 (復元)11.2cm	須恵器坏	−	5Y6／1	5Y6／1	5Y6／1	高台内 5Y6／1	微砂粒を若干含む	白 黒 外	内 ナデ，回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	良好 反転	107，112
48	729	破片	須恵器坏	口縁部~底部	N6／0	N6／0	N6／0	高台内 N6／0	細砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	七 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ，回転ナデヘラケズリ 高台内 回転ナデ	良好	538，727
49	193	破片	須恵器坏	口縁部~底部	N6／0 10G4／1	N5／0	N5／0	高台内 N6／0	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	白 外	内 ナデ，回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	良好	6層一般
50	332	破片	須恵器坏	口縁部~底部	N6／0	N6／0	N6／0	高台内 N6／0	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	白 黒 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	焼成良好	
51	342	破片	須恵器 高坏形土器	口縁部	N6／0	N5／0	N5／0 2.5Y6／1	−	微砂粒を若干含む		内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ	良好	
52	491	破片	須恵器 高坏形土器	口縁部	7.5Y5／1 5Y7／1	5Y5／1	5Y5／1	−	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む		内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ	良好	494
53	187	破片	須恵器 高坏形土器	口縁部	N6／0 N5／0	N5／0	N5／0 10Y5／1	−	微砂粒を若干含む	白 黒 外	内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ 口唇 回転ナデのちナデ，キザミ	良好	185 345同一
54	545	破片	須恵器 高坏形土器	口縁部	N6／0 N5／0	N6／0	N6／0	−	砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	白 外	内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ	良好	
55	716	破片	須恵器 高坏形土器	口縁部	5Y6／1	N5／0	7.5GY5／1	−	細砂粒を含む	白 外	内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ	良好	
56	230	破片	須恵器 高坏形土器	口縁部	2.5Y7／1	7.5Y7／1	10YR7／1	−	微砂粒を若干含む	白 七	内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ	良好	
57	438	破片	須恵器 高坏形土器	口縁部	2.5Y6／1	5Y6／1	5Y6／1	−	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む		内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ	良好	453 一般

白 白色粒、黒 黒色粒，カ カクセン石、七 セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 4

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色(外)	色(内)	色(胴)	色(他)	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
58	6層・一般	破片	坏形土器 or 皿	口縁部	2.5GY6/1	2.5GY6/1	2.5GY6/1	−	細砂粒を微量含む	(白)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ	良好	
59	760	破片	須恵器坏	底部	N6/0	10YR7/3 5YR5/4	10YR7/3 5YR5/4	(高台内)N6/0	細砂粒を含む	(カ)(セ)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (高台内)回転ナデ	良好	
60	226	(底)1/5残存	須恵器坏	底部	7.5Y6/1	10YR7/2	10YR7/2	(高台内) 7.5YR6/1	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	(カ)(白)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (高台内)回転ヘラケズリのちナデ	不良 土師色	
61	883	破片	須恵器坏	底部	5B6/1	2.5Y7/2 10Y6/1	2.5Y7/1	(底)2.5Y7/1	細砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	(白)(黒)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (高台内)回転ヘラケズリのちナデ	良好	
62	770	(底)1/2残存 (底)8.8cm	須恵器坏	底部	N5/0	N5/0	N5/0	(高台内)N5/0	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	(カ)(白)(黒)外	(内)回転ナデ (高台外)回転ナデ (高台内)回転ヘラケズリのちナデ	良好	
63	6層・一般	破片	須恵器 坏形土器	底部	7.5Y7/1	10Y7/1	7.5Y7/1	(高台) 7.5Y7/1	砂粒を若干含む 微砂粒を微量含む	(白)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (高台内)回転ナデ	良好	
64	550	(口)1/3~1/2残存 (口)(復元)13.2cm (底)1/3~1/2残存 (底)(復元)9.2cm (器)3.3cm	須恵器坏	−	N6/0	N6/0	N6/0	(底)N6/0	細砂粒を若干含む	(セ)(白)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好	
65	419	(口)1/4~1/3残存 (口)13.2cm (底)1/1残存 (底)8.4cm (高)3.9cm	須恵器坏	−	2.5YR4/4 7.5YR5/1	7.5YR5/3	7.5YR6/2	(底)5YR5/2	微砂粒を微量含む	(白)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ, 回転ヘラケズリのちナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好 外面に自然軸が若干かかり光沢あり	378,411, 415,416, 422,427, 502
66	359	4/5残存 (口)14.5cm (底)7.8cm	須恵器坏	−	N6/0 5Y3/1 7.5YR5/2	10YR5/2	10YR6/1	(底)10YR5/2 10BG6/1	微砂粒を含む 細砂粒を含む	(白)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (底)ヘラケズリのちナデ	良好? 良好	251,360, 388
67	836	(底)2/1残存 (底)9cm	須恵器坏	底部	N7/0 5PB4/1	N7/0 5PB4/1	N7/0	(底)N7/0 5PB4/1	微砂粒を若干含む	(白)外	(内)回転ナデのちナデ (外)回転ナデのちナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ		531,537, 576,848
68	855	(底)2/5~1/3残存 (底)9.5cm	須恵器坏	底部	N6/0	N6/0	N6/0	(底)N6/0	砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	(白)外	(内)回転ナデのちナデ (外)回転ナデのちナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好	847
69	497	(口)~(底) 1/5残存	須恵器坏	口縁部 ~底部	10Y7/1	10Y7/1	10Y7/1	(底)10Y7/1	細砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	(白)(黒)外	(内)回転ナデのちナデ (外)回転ナデのちナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好	496 溝マイド
70	190	破片	須恵器坏	口縁部 ~底部	N5/0	N5/0	N6/0	(底)N6/0	微砂粒を若干含む	(白)外	(内)回転ナデのちナデ (外)回転ナデのちナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好	440 441
71	788	破片	須恵器坏	口縁部 ~底部	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	(底)5Y7/1	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	(白)外	(内)回転ナデのちナデ (外)回転ナデのちナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好	350 355
72	137	破片	須恵器坏	口縁部 ~底部	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	(底)5Y7/1	微砂粒を若干含む	(白)外	(内)回転ナデのちナデ (外)回転ナデのちナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好	91,94,96, 135
73	582	破片	須恵器坏	口縁部 ~底部	N6/0	N6/0	N6/0	(底)N6/0	微砂粒を若干含む	(セ)(白)外	(内)ナデややマメツ (外)ナデややマメツ (底)ナデややマメツ	良好	583
74	209	(口)~(底) 1/8残存	須恵器坏	−	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	(底)5Y7/1	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	(白)(黒)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (底)回転ヘラケズリのちナデ	良好	
75	879	破片	須恵器 高坏形土器 or坏形土器	口縁部	5P6/1	10P5/2	2.5YR7/6	−	砂粒を若干含む微 微砂粒を若干含む	(白)(黒)外	(内)回転ナデ (外)回転ナデ (口唇)回転ナデのちナデ	不良	826,875
76	800	(口)1/3残存 (口)(復元)20.0cm	須恵器 甕形土器	口縁部	10R4/3 5YR3/1	2.5YR5/2 2.5YR2/1	N6/0	−	微砂粒を若干含む	(白)外	(内)ナデ, 回転ナデ, 同心円多キ (外)回転ヨコナデ格子目多キのち部分的にナデ, 砂粒が多量に付着	良好	213,585, 596,600, 627,628, 647

(白)白色粒、(黒)黒色粒, (カ)カクセン石、(セ)セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 5

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
77	728	口1/4~1/5残存 口(復元)19.9cm	須恵器 甕形土器	口縁部	N4/0	2.5Y5/1	10Y7/1	−	微砂粒を微量含む	七 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ	良好	781
78	791	破片	須恵器 壷形土器	胴部	7.5RY7/6 2.5RY5/3	7.5RY8/6	7.5RY7/6 2.5Y6/1	−	微砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む	白 黒 外	内 回転ナデ, 青ガイ波文 外 回転ナデ 格子目多タタキのちナデ	不良 傾き若干ギモン	786,789, 790,793
79	134	破片	須恵器 甕形土器	口縁部	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	−	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	カ 白 黒 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ	不良	
80	244	破片	須恵器 甕形土器	頸部~肩部	N5/0	N5/0	N6/0	−	微砂粒を若干含む		内 回転ナデ, 青ガイ波文 外 回転ナデ・格子目文	良好 傾き若干ギモン	533 一般
81	740	底1/2残存 底11.4cm	須恵器 甕形土器	底部	2.5RY5/2	7.5RY7/4	7.5RY7/4 2.5Y6/1	高台内 2.5YR5/2	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む		内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	良好 反転	
82	348	破片	須恵器 壷形土器	口縁部	N4/0	N5/0	N5/0 N6/0	−	細砂粒を含む	七 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ	良好	139 6層一般
83	6層・一般	破片	須恵器 壷形土器	口縁部	N3/0	10BG3/1	N3/0 10R5/2	−	細砂粒を微量含む	白 外	内 ナデ 外 ナデ	傾き若干ギモン 良好	
84	6層・一般	破片	須恵器 鉢形土器	口縁部	2.5RY4/2	10R4/1	10R4/1	−	細砂粒を微量含む	白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ	傾き若干ギモン 良好	
85	290	口(復元)18.4cm	須恵器 鉢形土器	口縁部	5B5/1	5B6/1	5B6/1	−	微砂粒を若干含む	七 白 外	内 回転ナデのちナデ 外 回転ナデのちナデ	良好	336,338
86	408	ツマミ1/1残存	須恵器蓋	−	7.5Y6/1	2.5Y7/1 2.5Y6/1	5Y6/1	−	細砂粒を微量含む	七 外	内 回転ナデ, 擦痕あり 外 回転ナデ, 回転ヘラケズリのちナデ	良好, 内面見込部に墨書あり「智」については「智」の異体字と考えられる(永山氏教示)	
87	220	底1/3~1/4残存	須恵器坏	底部	7.5Y6/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1	高台内 7.5Y7/1	細砂粒を若干含む	白 外	内 ナデ 外 回転ナデ 高台内 ナデ	良好, 反転 高台内面見込み部に墨書あり「福〇」福については(やきごめ)の異体字と考えられる (永山氏教示)	
88	240	破片	須恵器蓋	口縁部	5Y7/1	5Y7/1 5Y6/1	5Y7/1	−	砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む		内 回転ナデ 外 回転ナデ	墨書内面に有 判読困難	
89	180	4/5残存 口16.9cm 高 3.7cm	土師器蓋	−	5YR6/6	5YR6/6	5YR7/4	−	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ 七 白 黒 外	内 回転ナデ 外 回転ヘラケズリのちナデ ツマミ ダラリとしたつまみ	良好	179
90	258	ツマミ1/1残存 口(復元)17.3cm	土師器蓋	−	2.5YR6/6 7.5YR7/6	7.5YR7/4	10YR7/3	−	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ 七 白 砂 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ, 回転ヘラケズリ ツマミ 回転ナデ	良好, ロクロを利用し整形生焼の須恵に似るが焼成自体ははるかに甘い	225 255 259
91	653	ツマミ1/2残存	土師器蓋	−	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6 5YR8/1	−	細砂粒を含む	赤 外	内 ミガキ 外 回転ヘラケズリのちミガキ ツマミ 回転のちナデ	良好 ミガキを多用している	
92	435	4/5残存 口13.7cm 底10.2cm	土師器坏	−	5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6	高台内 5YR7/6	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ 七 白 黒 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台畳付部 やや凹む 高台内 回転ヘラケズリのちナデ・ヘラ描き記号	焼成良好, 反転 高台見込み部にヘラ描き記号あり	380,381 382,504, 742
93	483	底1/3残存 底10.9cm	土師器坏	底部	5YR6/6 5YR7/6	5YR6/6 5YR7/6	5YR6/6 5YR7/6	高台内 5YR6/6 5YR7/6	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	カ 七 白 黒 外	内 回転ナデ 外 回転ヘラケズリのちミガキ 高台内 回転ヘラケズリのちナデ	良好	532
94	181	破片	土師器坏	口縁部~底部	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4 2.5Y4/1	7.5YR7/4	微砂粒を若干含む	カ 七 外	内 回転ナデ 外 ナデ 高台内 ナデ	良好	
95	842	破片	土師器 坏形土器	口縁部~底部	2.5YR6/6 2.5YR4/2	5YR7/6 5YR3/1	5YR7/3	高台内 5YR7/6	細砂粒を若干含む	カ 七 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 高台畳付部 マメツ 高台内 ナデ	良好	

白 白色粒、黒 黒色粒, カ カクセン石、七 セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 6

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 ㊥	色 ㊦	色 ㊧	色 ㊨	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
96	646	1／2残存 ㊦10cm ㊥8.1cm	土師器皿	・－	2.5YR6／6	2.5YR6／6	2.5YR6／6	㊥ 2.5YR6／6	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㊀㊁㊂外	㊦回転ナデ ㊥回転ナデ ㊥回転ヘラケズリのちナデ	良好	
97	877	1／2残存 ㊦9.3cm ㊥7.7cm	土師器皿 （灯明皿）	－	5YR7／4 5YR3／1	7.5YR6／3 7.5YR4／1	7.5YR6／2	㊥ 5YR7／4 5YR5／2	微砂粒を若干含む		㊦回転ナデ，カーボン付着 ㊥回転ナデ ㊥回転ヘラケズリのちナデ	良好	
98	6層・一般	破片	土師器皿	口縁部	5YR7／6	5YR7／6	5YR7／6	㊥ 5YR7／6	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	㊂外	㊦回転ナデ ㊥回転ナデ ㊥ナデ	良好	
99	864	㊦~㊥ 1／5残存	土師器皿	－	2.5YR6／6	2.5YR6／6	2.5YR7／6	㊥ 2.5YR6／6	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㊀㊁㊃外	㊦回転ナデ ㊥回転ナデ ㊥ナデ	良好 反転	
100	871	破片	土師器坏	口縁部 ~底部	2.5YR6／6	5YR7／6	5YR7／6	㊥ 2.5YR6／6	微砂粒を若干含む	㊀㊂外	㊦回転ナデ ㊥回転ナデ ㊥回転ナデ	良好	
101	6層・一般	破片	土師器皿	口縁部 ~底部	5YR7／6	5YR7／6	5YR7／6	㊥ 5Y7／6	微砂粒を若干含む	㊀㊂㊁外	㊦回転ナデ ㊥回転ナデ ㊥ナデ	良好	
102	845	㊦1/4~1/5残存	甕形土器	口縁部	5YR5／3	5YR5／3 5R3／1	2.5YR5／3	－	細砂粒を含む 砂粒を若干含む	㊀㊂㊁外	㊦工具によるヨコナデのちナデ，ケズリ ㊥工具によるナデのちナデ ㊦㊤ナデ	傾き若干ギモン 良好	
103	838	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／4 7.5YR7／4	7.5YR6／4 5YR6／4	7.5YR3／1 5YR7／6	－	細砂粒を若干含む	㊀㊂㊁外	㊦ユビオサエのちナデ，ケズリ ㊥ナデ	傾き若干ギモン 良好	718,719
104	291	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／4	10YR4／1 7.5YR7／2	5YR7／4 7.5Y3／1	－	細砂粒を含む	㊀㊂㊁外	㊦ヨコナデ，ケズリ ㊥ヨコナデ，ナデ	傾き若干ギモン 良好	
105	675	破片	甕形土器	口縁部	5YR6／4	7.5YR6／4	7.5YR4／1	－	細砂粒を含む 砂粒を若干含む	㊀㊂㊁外	㊦ナデ，ケズリ ㊥ナデ	傾き若干ギモン 良好	
106	331	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／6	5YR7／4 5YR5／2	5YR7／6 N3／0	－	微砂粒を若干含む	㊀㊂㊁外	㊦ナデ，ケズリ ㊥ナデ	傾きギモン 良好	
107	198	破片	甕形土器	口縁部	10YR8／3	10YR7／3	2.5Y4／1	－	細砂粒を含む	㊀㊂外	㊦ナデ，ハケメ ㊥ナデ，ケズリ	傾き若干ギモン 良好	
108	476	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR5／4	10YR6／4 N3／0	7.5YR5／2 N3／0	－	細砂粒を若干含む	㊂㊁外	㊦ナデ，ケズリ ㊥ナデ	傾きギモン 良好	
109	505	破片	甕形土器	口縁部	5YR5／4	5YR5／4	5YR5／4	－	細砂粒を含む	㊀㊂㊁外	㊦ナデややマメツ，ケズリ ㊥ナデややマメツ	傾き若干ギモン 良好	
110	700	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／6	2.5YR6／4 2.5YR5／2	10YR4／1	－	細砂粒を若干含む	㊂㊁外	㊦ナデ ㊥ナデ	傾きギモン 良好	
111	251	破片	土師器 甕形土器	口縁部	2.5YR6／3	7.5YR6／1 N3／0	5YR7／2	－	細砂粒を若干含む 砂粒を若干含む	㊀㊂㊁外	㊦ナデ ㊥ヨコナデ	傾き若干ギモン 良好	6層一般
112	517	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／4	2.5YR5／2	2.5YR6／2	－	細砂粒を若干含む	㊀㊂外	㊦ナデ，ややマメツ，ケズリ ㊥ナデ，ややマメツ	傾きギモン	
113	756	破片	甕形土器	口縁部	10R5／6 7.5YR6／4	10R5／6 7.5YR6／4	5RY7／6 5YR4／1	－	微砂粒を含む 細砂粒を含む	㊂㊁外	㊦ナデ ㊥ナデ ㊦㊤ヨコナデ	傾き若干ギモン 良好	
114	521	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／6	2.5YR5／6	2.5YR5／6	－	微砂粒を含む	㊀㊂外	㊦ナデ ㊥ナデ	傾きギモン 良好	

㊁白色粒、㊂黒色粒、㊀カクセン石、㊂セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 7

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
115	294	破片	甕形土器	口縁部	10YR5／6	2.5YR5／4	2.5YR5／4	－	細砂粒を含む 微砂粒を若干含む	カ セ 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 底 回転ヘラケズリのちナデ	傾き不明 良好	
116	205	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／6	10YR7／3	7.5YR8／3	－	細砂粒を含む 砂粒を若干含む	カ セ 白 外	内 回転ナデ，カーボン付着 外 回転ナデ 底 回転ヘラケズリのちナデ	傾きギモン 良好	
117	352	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／6	5YR7／6	5YR6／2	－	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ セ 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 底 ナデ	良好	642
118	83	破片	甕形土器	口縁部	5YR6／6	5YR7／4	10YR7／2	－	細砂粒を含む	セ 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 底 ナデ	傾き若干ギモン 良好	
119	614	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／4	5YR6／6	5YR6／6	－	細砂粒を含む 砂粒を若干含む	カ セ 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 底 回転ナデ	傾きギモン 良好	
120	409	破片	甕形土器	口縁部	5YR6／4	2.5YR5／2	2.5YR6／4 7.5YR5／1	－	細砂粒を含む	セ 白 外	内 回転ナデ 外 回転ナデ 底 ナデ	傾きギモン 良好	
121	816	破片	土師器 甕形土器	口縁部	7.5YR8／3	7.5YR8／3	7.5YR8／3	－	砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ セ 外	内 工具によるヨコナデのちナデ，ケズリ 外 工具によるナデのちナデ 口唇 ナデ	傾きギモン 良好	
122	658	破片	甕形土器	口縁部	10R4／4	2.5YR5／3	10R5／4	－	砂粒を微量含む 細砂粒を含む	カ セ 外	内 ミガキ 外 ナデ		660
123	191	破片	甕形土器	頸部	2.5YR6／6	5YR7／4	7.5YR8／4	－	細砂粒を多く含む	カ 外	内 ナデ，ケズリ 外 工具によるナデのちナデ	傾きギモン 良好	
124	735	破片	甕形土器	頸部	5YR7／4 7.5YR7／3	7.5YR7／4	10YR7／2	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ 外	内 ナデ，ケズリ 外 ナデ	傾きギモン 良好	
125	443	破片	甕形土器	頸部～胴部	2.5YR5／3	5YR6／6	5YR1.7／1 7.5YR6／3	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む		内 ナデ，ケズリ 外 ハケメのちナデ，ナデ	傾きギモン 良好	
126	726	破片	甕形土器	頸部	10R3／2	5YR5／4	5B1.7／1 5YR4／1	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	カ セ 外	内 ナデ，ケズリ 外 ナデ	傾きギモン 良好	
127	一般	長 6.4cm 短 16.7cm 厚 1.5cm 重 84 g						－					
128	730	長 12.4cm 短 5.3cm 厚 1.7cm 重 60 g	偏平打製石斧					－		負岩製			
129	288	長 5.6cm 短 4.1cm 厚 3.7cm 重 78 g	砥石					－		砂岩			
130	一般	長 6.1cm 短 4.2cm 厚 1.8cm 重 10 g	軽石製加工品					－		軽石			
131	681	長 7.2cm 短 5.8cm 厚 6.2cm 重 300 g	凹石					－		安山岩			
132		長 7.4cm 短 5.7cm 厚 3.3cm 重 200 g	凹石					－		安山岩			
133	685	長 10.3cm 短 9.8cm 厚 8.2cm 重 878 g	凹石					－		安山岩			

白 白色粒、黒 黒色粒，カ カクセン石、セ セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 8

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色 ㊥	色 ㊦	色 ㊧	色 ㊨	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
134		㊩14.8cm ㊪10.6cm ㊫0.4cm	鉄製品		－	－	－	－	－	－			
135	168	破片	甕形土器	口縁部	5YR6／6 5YR4／3	2.5YR6／6	5YR6／6	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㋕㋑外	㊦ユビオサエのちナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
136	65	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／6 7.5YR5／3	2.5YR6／6	2.5YR6／6 7.5Y4／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㋕㋑外	㊦ナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
137	30	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／8 5YR5／4	5YR6／6	10YR7／3 7.5Y4／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㋕㋑㊀㊁外	㊦ナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
138	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	7.5YR6／4	5YR6／4	7.5YR6／4	－	細砂粒を若干含む	㋑㊀外	㊦ナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデ	傾きギモン 良好	
139	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	7.5YR8／4	2.5YR6／6	7.5YR8／4	－	細砂粒を含む	㋕㋑㊀㊂外	㊦ナデ ㊥マメツ ㊤㊪ヨコナデ	傾き若干ギモン 良好	
140	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／6 10YR2／1	10YR2／1 10YR5／3	5YR7／6 10YR2／1	－	細砂粒を若干含む	㋑㊀㊂外	㊦ヨコナデ ㊥ヨコナデ ㊤㊪ヨコナデ	傾き不明	
141	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	7.5YR6／4	7.5YR6／4	7.5YR7／4	－	細砂粒を含む	㋑㊀㊂外	㊦ナデ ㊥ナデややマメツ ㊤㊪ヨコナデ	傾き若干ギモン 良好	
142	19	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR7／8	7.5YR6／4 7.5YR5／3	7.5YR6／3	－	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	㋕㋑㊀㊁外	㊦ナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデ	傾きギモン 良好	
143	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	5YR6／6	5YR6／6	5YR6／6	－	細砂粒を含む	㋕㋑外	㊦マメツ ㊥マメツ ㊤㊪ヨコナデややマメツ	傾きギモン 良好	
144	6	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／6 7.5YR4／3	7.5YR4／2 5YR7／8	5YR7／8	－	微砂粒を含む	㋕㋑㊀㊁外	㊦ナデ ㊥ミガキ ㊤㊪ヨコナデ	傾きギモン 良好	
145	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR6／6	2.5YR6／6	2.5YR6／6	－	細砂粒を含む	㋕㋑㊀外	㊦ナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデ	傾きギモン 良好	
146	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	7.5YR7／4 5YR4／3	7.5YR7／4	7.5YR7／4	－	細砂粒を含む	㋕㋑㊂外	㊦ナデ ㊥ハケメ ㊤㊪ヨコナデ	傾き若干ギモン ハケメ8本／㎝	
147	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／6	5YR7／6	10YR7／3	－	細砂粒を含む	㋕㋑㊀外	㊦ナデややマメツ ㊥ナデややマメツ ㊤㊪ナデややマメツ	傾き若干ギモン	
148	10層・一般	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR7／8 5YR4／3	5YR6／6	5YR6／6 2.5YR7／8	－	細砂粒を含む	㋕㋑㊀外	㊦ナデ ㊥ハケメ ㊤㊪ヨコナデ	傾き若干ギモン 良好	
149	10層・一般	1/6~1/7残存	甕形土器	口縁部	2.5YR7／8 5YR3／2	2.5YR6／6	7.5YR7／3	－	細砂粒を含む	㋕㋑㊀㊂外	㊦ナデ ㊥ハケメ ㊤㊪ヨコナデ ㊧ヨコナデ	ハケメ11本／㎝ 良好	
150	948	破片	甕形土器	口縁部	5YR7／6	7.5YR7／6	7.5YR8／4	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	㋕㋑㊀㊁	㊦ナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
151	12層・一般	破片	甕形土器	口縁部	2.5YR5／6	2.5YR3／1	2.5GY2／1	－	細砂粒を若干含む	㋕㋑外	㊦ナデ,マメツ ㊥ハケメ ㊤㊪ヨコナデのちキザミ	傾き若干ギモン 良好	
152	925	破片	甕形土器 (弥生時代)	口縁部	2.5YR6／8 5YR6／6	2.5YR6／8 7.5YR7／4	5YR7／6	－	砂粒を多く含む 細砂粒を多く含む	㋕㋑㊀㊁㊂外	㊦ナデ ㊥ナデ ㊤㊪ヨコナデ	傾きギモン 良好	

㊀白色粒、㊁黒色粒、㋕カクセン石、㋑セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表 9

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色(外)	色(内)	色(肉)	色(他)	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
153	928	破片	甕形土器 (弥生時代)	口縁部	5YR7／6	5YR7／6	5YR7／6	－	砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒) (赤)外	(内)ナデ (外)ナデ (口唇)ヨコナデ	傾きギモン 良好	
154	929	破片	甕形土器or 壷形土器	胴部突帯部	5YR7／6 5YR5／1	7.5YR7／4 5YR5／2	7.5YR7／2	－	細砂粒を含む	(カ)(白)外	(内)ナデ (外)ナデ，工具によるナデ (突)ヨコナデのちキザミ	傾き上下不明 良好	
155	9層・一般	破片	甕形土器	胴部突帯部	5YR4／2	5YR7／6 2.5YR5／2	N5／0 10YR2／1	－	細砂粒を含む	(カ)(セ)(白)外	(内)ナデ (外)ナデ，ハケメ (突)ヨコナデのちキザミ	傾き不明 ハケメ18本／cm 良好	
156	21	破片	甕形土器	突帯部	5YR7／8 7.5YR5／2	5YR7／6	7.5YR7／4	－	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(セ)(白)(黒) (赤)外	(内)ナデ (外)ナデ (突)ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
157	947	破片	甕形土器	突帯部	2.5YR6／4 2.5YR4／3	2.5YR5／2 5YR6／6	2.5Y2／1 7.5YR5／1	－	細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)外	(内)ナデ (外)ナデ (突)ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
158	9層・一般	破片	甕形土器	口縁部	7.5YR7／4 7.5YR3／1	7.5YR7／3	7.5YR7／3	－	細砂粒を含む	(カ)(セ)(白)外	(内)ナデ (外)ナデ (口唇)ヨコナデ (突)ヨコナデ	傾き若干ギモン	
159	31	破片	甕形土器	突帯部	2.5YR5／2 2.5YR6／6	5YR5／4 5YR4／2	5YR7／4 5Y3／1	－	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(セ)(白)(黒) (赤)外	(内)ナデ (外)ナデ (突)ヨコナデ	良好	35
160	28	破片	甕形土器	突帯部	5YR6／4	2.5YR7／6 2.5YR6／3	7.5YR8／3 5YR6／4	－	砂粒を含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(セ)(白)(黒) (赤)外	(内)ナデ (外)ナデ (突)ヨコナデ	良好	
161	26	破片	甕形土器	突帯部	2.5YR7／8	5YR6／6 5YR6／3	2.5YR7／8 5YR6／6	－	砂粒を多く含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(セ)(白)(黒) (赤)外	(内)ナデ (外)ナデ (突)ヨコナデ	良好	29
162	一般	(底)1／1残存 (底)8.9cm	甕形土器	底部	2.5YR5／4 10YR8／4	2.5YR5／4 10YR7／3	2.5YR5／4	(脚内) 5YR6／3	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	(カ)(セ)(白)外	(内)ナデ (外)工具によるナデのちナデ，ハクリ (脚内)工具によるナデのちナデ	良好	
163	29	破片 (底)1／2 (底)12.8cm	甕形土器	底部	2.5YR6／6 10R4／2	5YR6／6 2.5YR4／2	2.5YR4／2	(底) 7.5YR7／4 7.5YR3／1	砂粒を含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒) 外	(内)工具によるナデのちナデ (外)ハケメのちナデ (底)工具によるナデのちナデ	良好	
164	41	(底)1／1 (底)7.5cm	甕形土器 (弥生時代)	底部	2.5YR7／6	5YR7／3	2.5YR7／6	(底) 2.5YR7／6	砂粒を多く含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(セ)(白)(黒) (赤)外	(内)ナデ (外)工具によるナデのちナデ (底)工具によるナデのちナデ	良好	
165	954	(底)1／1 (底)6.8cm	甕形土器 (弥生時代)	底部	2.5YR6／8 5YR7／4	2.5YR7／6	2.5YR7／6 7.5YR5／2	(底) 2.5YR6／8	砂粒を含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒) (赤)外	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ (口唇)ナデ	良好	
166	741	破片	壷形土器	底部	2.5YR7／4	2.5YR7／6	2.5YR7／6 7.5YR6／3	－	砂粒を若干含む 細砂粒，微砂粒を含む	(カ)(セ)(白)(黒) 外	(内)ナデ (外)工具によるナデのちナデ (底)ナデ	良好	
167	9層・一般	(底) 1/3~1/4残存	甕形土器or 鉢形土器	底部	2.5YR6／6	5Y5／1 10YR7／2	2.5YR6／6 10YR7／2	(底) 10YR7／4	細砂粒を含む	(カ)(セ)(白)外	(内)工具によるナデのちナデ (外)工具によるナデのちナデ	良好	
168	9層・一般	(底) 1/3~1/4残存	甕形土器	底部	7.5YR7／6	－	10YR6／3	(脚内) 5YR6／3	細砂粒を多く含む	(カ)(セ)(白)外	(内)ナデ (脚内)ナデ (底)無調整		
169	10層・一般	(底)1／1残存 (底)8.1cm	甕形土器	底部	2.5YR6／6 10R5／6	2.5YR6／8 2.5YR5／4	10R6／6	(底) 10R5／8	細砂粒を若干含む	(セ)(白)外	(内)ナデ (外)ナデ (底)ナデ	良好	
170	12層・一般	破片	甕形土器	底部	2.5YR7／8 7.5YR4／3	2.5YR7／8	2.5YR7／8	(底) 2.5YR7／8	砂粒を含む 細砂粒を含む	(カ)(セ)(白)外	(内)ナデ (外)マメツ (底)マメツ	良好	
171	126	破片	壷形土器	口縁部～突帯部	10R5／6 5YR6／4	10R5／6	10R5／6	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(セ)外	(内)工具によるナデのちナデ (外)ナデ		

(白)白色粒、(黒)黒色粒，(カ)カクセン石、(セ)セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表10

図番	取上げNo.	残存法量	器種	部位	色(外)	色(内)	色(肉)	色(他)	胎土粒	混和材	調整	その他	接合
172	514	破片	壷形土器	口縁部	2.5YR6／6	5YR6／4 2.5YR6／6	2.5YR6／6 5YR6／4	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	(カ)(七)(白)(黒) 外	(内)ナデ (外)ナデ (口唇)ヨコナデ (突)ナデ	良好	
173	897	(底)1／1残存 (底)3.0cm	壷形土器	底部	7.5YR8／3 10YR4／1	7.5YR4／1	7.5YR4／1	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	(カ)(七)(白) 外	(内)ユビオサエのちナデ,ナデ (外)ナデ,マメツ (底)無調整	良好 SA－2埋土出土	
174	894	(口)1／2残存 (口)(復元)9.3cm	壷形土器	口縁部	7.5YR8／3	5Y6／1	N4／0	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	(カ)(七)(白)(赤) 外	(内)ややマメツ (外)ややマメツ	SA－2埋土出土	
175	86	破片	壷形土器	口縁部	5YR6／3	2.5YR5／3 10R6／6	10R6／6	－	砂粒を若干含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(七)(白)(黒) 外	(内)ナデ,ハクラク (外)ナデ	良好	
176	640	破片	壷形土器 (成川式)	頸部	7.5YR7／4	5YR6／6	5YR7／3	－	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	(カ)(七)(白)(黒) 外	(内)ユビオサエのちナデ (外)工具によるナデのちナデ	傾きギモン 良好	
177	9層・一般	破片	壷形土器	口縁部	10YR7／2 5YR8／4	7.5YR7／3	2.5YR5／1 7.5YR7／2	－	微砂粒を若干含む	(カ)(七) 外	(内)ナデ (外)ナデ	傾きギモン	
178	9層・一般	破片	壷形土器	口縁部	7.5YR7／4 7.5YR3／1	7.5YR7／3	7.5YR7／3	－	細砂粒を若干含む	(カ)(七)	(内)ナデ (外)ナデ	傾き若干ギモン	
179	9層・一般	(底)1／1残存 (底)2.3cm	壷形土器	底部	10YR7／4 2.5YR4／1	7.5YR8／4	2.5Y5／1 7.5YR8／3	(底) 10YR4／1	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	(カ)(七)(白)(赤) 外	(内)ナデ (外)ナデ (底)ナデ	良好	
180	887	(底)1／1残存 (底)3.1cm	壷形土器	底部	7.5YR8／4	2.5YR7／8	5YR8／4	(底) 2.5YR7／8	砂粒を含む	(カ)(七) 外	(内)ケズリ (外)工具によるナデのちナデ (底)工具によるナデのちナデ	良好 SA－2埋土出土	
181	939	破片	壷形土器	口縁部	7.5YR7／6	7.5YR7／6 5YR7／8	7.5YR8／4	－	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(七)(白)(黒) 外	(内)ナデ (外)工具によるナデのちナデ (口唇)ヨコナデ		
182	12層・一般	破片	壷形土器	口縁部	7.5YR8／3	10YR8／3	10YR8／3 10Y5／1	－	細砂粒を若干含む	(七)(白)(赤) 外	(内)ナデ (外)ナデ (口唇)ナデ	傾き若干ギモン 良好	
183	944	破片	壷形土器	突帯部	7.5YR6／4 5YR4／2	5YR6／4	5YR6／4	－	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(七)(白)(黒) (赤) 外	(内)ナデ (外)ナデ (突)ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
184	950	破片	壷形土器	突帯部	5YR7／6	7.5YR7／6 10YR6／1	10YR6／1 5YR7／6	－	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(七)(白)(黒) (赤) 外	(内)ユビオサエのちナデ (外)ハケメのちナデ (突)ヨコナデのちキザミ	傾きギモン 良好	
185	924	破片	壷形土器 (弥生時代)	突帯部	7.5YR8／4 N3／0	5YR7／6	10YR5／1	－	細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	(カ)(七)(白) 外	(内)ナデ (外)ナデ (突)ヨコナデ	傾きギモン 良好	
186	591	破片	高坏形土器	脚台部	7.5YR6／3	7.5Y6／3	10G3／1	(脚内) 7.5YR6／3	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	(カ)(七) 外	(内)ナデ (外)工具によるナデのちナデ	反転 良好	
187	85	破片	高坏形土器	脚台部	5YR7／6	5YR7／6	N3／0	(脚内) 7.5YR7／3	砂粒を含む	(カ)(七) 外	(内)ナデ (外)工具によるナデのちナデ (脚内)工具によるナデのちナデ	良好	
188	922	(口)1／3残存 (底)1／1残存	高坏形土器	口縁部～底部	2.5YR6／6 5YR7／6	2.5YR6／6 5YR7／6	2.5YR6／6 7.5YR8／6	(脚内) 5YR7／6 7.5YR5／3	細砂粒を含む 細砂粒を含む	(七)(白) 外	(内)ミガキ,マメツ (外)ミガキ,マメツ (脚内)マメツ	全体にマメツが著しい 反転	805
189	10層・一般	(口)1／3~1／2残存 (口)14.6cm	高坏形土器	口縁部	10R6／6	10R6／6	10R6／6	－	細砂粒を若干含む 微砂粒を含む	(カ)(七)(白)(赤) 外	(内)マメツ (外)マメツ		
190	1	(口)8.8cm (胴最大)12.4cm (底)3.6cm (高)12.7cm	無頸壷形土器	完形	2.5YR6／6 2.5YR7／3	2.5YR6／6 2.5Y7／3	7.5YR7／4	(底) 7.5YR4／1	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	(カ)(七)(白) 外	(内)ナデ,マメツ著しい (外)ナデ,マメツ著しい (底)ナデ,マメツ著しい	良好	

(白)白色粒、(黒)黒色粒、(カ)カクセン石、(七)セキエイ、良好…焼成良好

遺物観察表11

図番	取上げNo.	残存法量	器　種	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調　整	その他	接合
191	854	口1／2残存 口(復元)10.4cm 底1／1残存 底8.0cm 高(復元)11.9cm	鉢形土器	－	2.5YR6／2 N3／0	10R6／4	2.5YR7／3	脚内 5YR6／3	細砂粒を含む	カ セ 白 外	内ナデ 外ナデ，工具によるナデのちナデ 脚内ナデ 脚端ナデ		
192	405	底1／1残存	ミニチュア土器 甕形土器	底部	7.5YR7／1 M3／0	7.5YR6／3	7.5YR6／3	脚内 7.5YR6／3	細砂粒を含む 微砂粒を含む		内工具によるナデのちナデ 外ユビオサエのちナデ 高台内ナデ	良好	
193	849	破片 口3／4 口3.1cm	ミニチュア土器 甕形土器	底部	10YR4／2 5YR6／6	10YR5／3	10YR5／3	脚内 10YR4／2	砂粒，細砂粒，微砂粒を含む	カ セ 白 黒 外	内ナデ 外ユビオサエのちナデ 脚内ユビオサエのちナデ		
194	900	底～胴 1／2残存 底2.7cm	ミニチュア土器 （コップ形）	底～胴部	10YR4／1 7.5YR5／1	2.5YR7／4	10R5／2	脚内 2.5YR6／4	砂粒を若干含む 細砂粒を若干含む	カ セ 白 黒 外	内ナデ 外工具によるナデのちナデ 底工具によるナデのちナデ	反転	

白 白色粒、黒 黒色粒，カ カクセン石、セ セキエイ、良好…焼成良好